



令和5年度 宮崎大学概要

世界を視野に 地域から始めよう



UNIVERSITY OF MIYAZAKI 2023

CONTENTS

令和5年度 宮崎大学概要

- 01 教育の特色
- 03 研究の特色
- 05 学部・別科・大学院
- 07 機構・センター・施設等
- 11 地域貢献
- 13 国際交流・サテライトオフィス
- 14 資料編
- 47 キャンパスマップ

本学の理念

宮崎大学は「世界を視野に地域から始めよう」をスローガンに、学術・芸術・文化およびスポーツを通じて、地域との協働により地方創生に貢献する高等教育機関です。

学生が主体的に創造力と行動力を養い向上できるよう奨励すると共に、変わりゆく世界情勢や新たな科学技術の進展にも対応できる人材を育成し、国際社会の発展と人類の福祉の向上に寄与します。

本学は、自然豊かな宮崎の利点を生かした教育・研究を取り入れ、持続可能で平和な未来社会の構築とDE&I*の観点からも平等な地域共生社会の実現を目指します。

* Diversity(多様性)、Equity(公平性)、Inclusion(包括性)の頭文字

シンボルマークについて



宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。

白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。

さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。また、緑(グリーン)と青(ブルー)の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。

宮崎大学オリジナルキャラクター

平成23年5月、学内公募により誕生した、宮崎大学オリジナルキャラクター「みやだいもうくん」です。本学の英語表現である「University of Miyazaki」の頭文字「UoM」を逆から読んで「Mou(もう)」、この音が牛の泣き声に似ていることが名前の由来です。宮崎大学を広くアピールするため、いろいろな場面で活躍しています。



みやだいもうくん

持続可能な社会に向けて宮崎をリードし、 地方の知の拠点として貢献できる大学を目指す



宮崎大学長
鯫島 浩

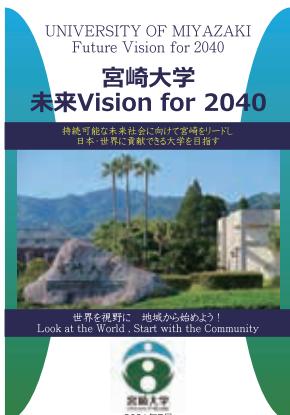
宮崎大学は5学部、7研究科を擁する総合大学です。教育、研究、医療、地域貢献、国際貢献などの分野で、日々、活動を展開し、宮崎の発展に寄与しています。宮崎の人、自然、伝統、文化を愛し、同時に宮崎の人々からも評価される大学でありたいと考え、地域に貢献する若手人材の育成と地域の問題を科学的視点から解決する地域の知の拠点として発展し続けています。

本学のスローガンは、「世界を視野に地域から始めよう」です。含蓄するところは広く、例えば、SDGsや世界的規模の大きな問題であっても、第一段階は身近なローカルな問題を一つずつ解決することが必要であることを表しています。逆に、限りなくローカルな問題であっても、突き詰めると真理に到達することができ、それをクローバルに発信することの重要性も示しています。ローカルに活動しつつ、グローバルに発信する、local actionとglobal thinkingの両立、そして地域のコミュニティを大切にすること、そのような概念を含んでいます。

また、本学の理念には、学生の主体性や創造性を養うために学生目線の大切さを謳っています。そして、持続可能で平和な未来社会を構築するために、DE & I (diversity, equity and inclusion)の視点の重要性も示しています。その上で、教育研究に加えて文化、芸術、スポーツなどを通して地域と協働し、地域創生に貢献することを掲げています。この宮崎大学概要には、教育、研究、地域貢献、国際貢献などの概略と、学部、大学院、センターなどの主な活動を掲載いたしました。ご一読いただければ幸いです。

現在の世界情勢は複雑化しており、見通しが立て難い状況にあります。その中にあって日本も重大な局面を迎つつあるように見えます。どのような情勢であっても、宮崎大学は核となる理念を維持し、社会と時代の要請に応じて強かに変革を進めてまいります。今後とも、産官学金等の多様な機関との連携を強固にしつつ、輝き続ける大学でありたいと考えています。

宮崎大学未来 Vision for 2040



<https://www.miyanasaki-u.ac.jp/guide/guidevision2-2.pdf>



学長・理事・各学部等教員・事務職員等、計13名で構成する「将来構想委員会」において、宮崎大学が今後推進すべき教育・研究・医療・地域貢献・国際貢献・管理運営等について意見交換を重ねた結果、今後の宮崎大学の道標として『宮崎大学未来 Vision for 2040』を提示いたしました。宮崎大学が持続可能な未来社会に向けて宮崎県をリードし、日本・世界に貢献できる大学を目指す意気込みを表しています。

学長戦略企画室

学長戦略企画室では、ビジョンの実現に向けて、本学にとって特に重要と位置づける教育・研究機能の強化、社会との共創、大学の魅力向上等に係る事項について総合的かつ多様な視点で戦略を企画・提案しています。学長の意思決定及び大学経営・事業推進を支援する等、学長のリーダーシップを高めながら、これまで以上に社会に必要とされる大学に変化を遂げていきます。

教育の特色

地域で育てるグローバルな人材

「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、宮崎大学では、地域をフィールドにして培った課題解決能力と実践的な語学力をそなえ、グローバルな視野で主体的に活躍できる人材を育てようとしています。このような人材を育成するために、学部段階の教育では教養教育と専門教育とが連続して展開されるように学士課程一貫の教育カリキュラムを構築しています。

教養教育における「導入科目」は、「大学教育入門セミナー」、「情報・データリテラシー」、「英語」、「専門接続系」の区分で構成し、大学で学ぶための心構えや自己の所属する教育課程の理解、高度情報化時代に対応できる情報処理能力、外国語コミュニケーション能力と専門教育において必要とされる英語運用能力、及び専門教育において必要とされる知識・技能を育成します。

「課題発見科目」は、「データサイエンス系」、「人文・社会・芸術系」、「自然・生命・技術系」、「地域・国際・学際系」の区分で構成され、本学の第4期中期目標「特定の専攻分野を通して課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する」を達成するため、及びSTEAM教育プログラムを構築する上で中核となる科目群となっています。

「未来共創科目」は、「構想・デザイン系」と「協働・創造系」の区分で構成され、SPARCプログラムの中核となる科目群で、地域や世界を見る目や幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度、及び地域をフィールドに様々なステークホルダーと連携したPBL（プロジェクトベースドラーニング）やアントレプレナーシップを通じて、学生同士だけではなく社会人や地域住民等と協働・共創する力、企業内・地域内の具体的な課題の解決策を提示する力を育成します。

異分野融合による教育

本学の教育の特色のひとつは、異なる分野の知識・視点・方法等を融合させることによって、新たな教育を展開している点にあります。平成28年度に新設された地域資源創成学部においては、マネジメントに関する専門知識と、社会・人文科学及び農学・工学分野

の利活用技術の基礎知識によって編成された異分野融合のカリキュラムが構築され、そこでは単に地域を教育研究のフィールドとするだけでなく、地域の人々との協働教育や全県規模でのインターンシップ教育も実施しています。

大学院では、研究科ごとに特徴ある高度専門職業人の養成をめざした教育プログラムが用意されており、特に博士課程においては、農学と工学が融合した農学工学総合研究科（博士後期課程）、医学と獣医学が融合した医学獣医学総合研究科（平成26年度からは修士課程を併設）が、それぞれ全国に先駆けて創設されました。教職大学院（教職実践開発専攻）では、各教科等の領域が融合したカリキュラムが編成されています。

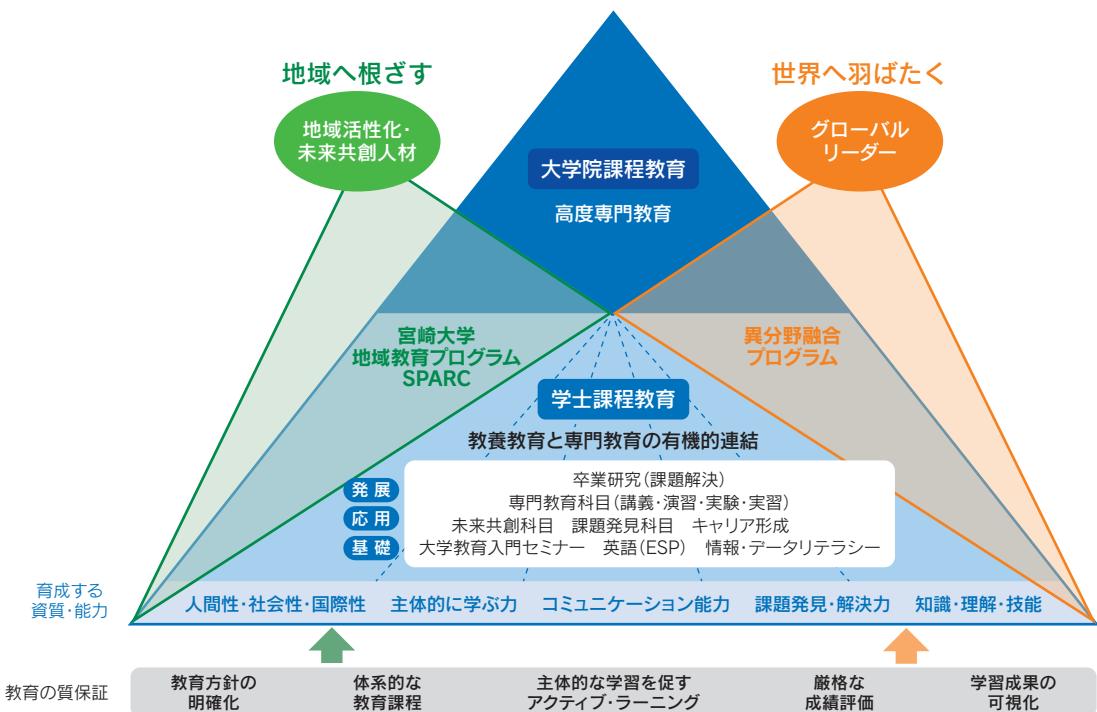
このように、旧来の縦割りの学問分野による教育ではなく、これまで領域を異にしていた分野を新たに融合させることによって、相互の研究や教育の質を向上させ、なおかつ、これまで手の届きにくかった融合領域に関して新たな研究成果や教育効果をもたらしています。異分野融合による教育・研究の成果は各学部の専門教育にも着実に活かされ、グローバルな人材を地域で育てるという本学のスローガンを実質的に支えています。

自立性を育てる学習環境の整備

サークル活動やボランティア活動、海外研修留学など、正規のカリキュラム以外での活動を通してさまざまな資質・能力を磨くことや、自己と社会との関わりについて考えを深めることも大学教育の重要なねらいのひとつです。本学では、学生自身が大学や地域社会を活性化するための取組を企画運営することにより、企画力や実行力を身につけることを目的とした、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」という本学独自の事業を平成17年度から実施しており、これまで多くの成果を生み出してきました。

また、ラーニングコモンズ等の自主学習の環境を整備しており、それらを利用した学生たち自身による自主的・自発的な学習活動も増えています。このように、本学では、自ら考え、行動できる自立した人材を育成するために自由に学ぶという理念に支えられた「学びやすい環境」を準備できるように取り組んでいます。

本学における学士・大学院教育の概念図



教育理念

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。本学では、これらの理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げ充実した教育に取り組んでいます。

1. 人間性の教育

高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。

2. 社会性・国際性の教育

地球規模の視野に立ち、社会の多様な要請に対応して、柔軟で論理的な思考力をもって、社会の発展に積極的に貢献できる社会性・国際性を涵養する。

3. 専門性の教育

新たな知の創造につながる専門教育を実施し、獲得した知識・技能を総合的に活用して、自ら発見した課題に適用し、解決する創造的思考力や態度を育成する。

宮崎大学の教育プロジェクト（令和5年7月現在）

教育プログラム採択状況等			
大学教育再生戦略推進費 ※1		期間	学部等
新しい価値を創造し持続可能な地域づくりを牽引する「多様な未来共創人材」の育成プログラム	地域活性化人材育成事業～SPARC～	2022.4～2028.3	全学
地方と都市の地域特性を補完して地域枠と連動しながら拡がる医師養成モデル事業 ～KANEHIROプログラム：病気を診ずして病人を診よ～	ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業	2022.4～2029.3	医学部
大学改革推進等補助金 ※2		期間	学部等
農工連携による農林畜産業を中心とした地域産業DXを牽引するデジタル活用高度専門人材育成	デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業	2022.3～2024.3	農学部 工学部
人材育成推進事業費補助金 ※3		期間	学部等
宮崎県地域企業向け寄添い型デジタル人財育成リスキループログラム	成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業	2023.4～2024.3	全学

※1 中央教育審議会等で提言された政策課題に特化した誘導型の文部科学省の補助金。大学における革新的・先導的教育研究プログラムを開発・実施する取組や、迅速に実現すべきシステム改革を支援・普及することで、大学教育の充実と質の向上を図る事業を重点的に支援する。

※2 大学・短期大学及び高等専門学校が行う教育改革を推進するための事業及びその他大学等の教育改革を推進するための事業に必要な経費を補助することにより、我が国の高等教育の活性化及び高度な人材育成に資することを目的とした文部科学省の補助金。

※3 大学・専門学校等が行う、成長分野における人材育成を推進するための事業に必要な経費を補助することにより、社会人のキャリアアップや成長分野への労働移動を後押しすることを目的とする。

JACME(ジャクミー) ※4	認定分野	期間
医学部 医学科	医学教育分野	2019.6～2026.5

※4 日本医学教育評価機構。これに認定された教育プログラムは、医学教育の充実、向上を図り、我が国の保健、医療、福祉、衛生、並びに国際保健に貢献するために、必要な知識や能力の養成に成功していると国際的見地から評価されることになります。

JABEE(ジャビー) ※5	認定分野	期間
工学部 環境応用化学科	化学及び関連のエンジニアリング分野	2004.4～2024.3
工学部 社会環境システム工学科 (2021年度入学生からは、土木環境工学プログラム)	土木及び関連の工学分野	2004.4～2024.3
工学部 機械設計システム工学科 (2021年度入学生からは、機械知能工学プログラム)	機械及び関連の工学分野	2005.4～2026.3 ※6
工学部 電子物理工学科 (2021年度入学生からは、応用物理工学プログラム)	物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	2017.4～2029.3 ※7
工学部 電気システム工学科	電気・電子及び関連の工学分野	2004.4～2027.3
工学部 情報システム工学科	CS(コンピュータ科学)分野	2005.4～2024.3

※5 日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されましたことになります。

※6 認定継続審査中。認定された場合、機械知能工学プログラムは2022年度入学生までが対象です。

※7 認定継続審査中。認定された場合は、本年度から有効になります。

教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 ※8	期間	学部等
宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシー)	リテラシーレベル	2022.4～2027.3	全学
	(リテラシーレベル) プラス	2022.4～2027.3	全学
宮崎大学工学部データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)	応用基礎レベル	2022.4～2027.3	工学部

※8 学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力(リテラシーレベル)や、課題を解決するための実践的な能力(応用基礎レベル)を育成するため、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程(教育プログラム)を文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度

研究の特色

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

宮崎大学は持続可能な開発目標(SDGs)の達成に資する取り組みを推進しています。

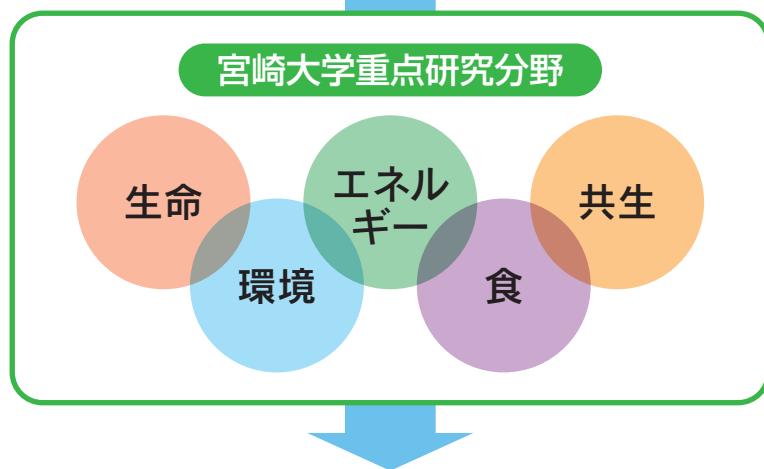


本学の強みである「生命・環境・エネルギー・食・共生」の各分野を横断した研究を推進

宮崎大学では、人類・社会の持続的発展、また、地域産業・地域経済の発展に寄与するため、「地域共生社会の実現に向けた研究の推進と社会実装」を全学的研究ミッションと位置付け、本学の強み、特色である「生命・環境・エネルギー・食・共生」の重点研究分野を横断させた3つの研究の柱を軸に研究プロジェクトを積極的に推進し、地域を始め多様な分野の課題解決に貢献するとともに、SDGsに掲げられている地球規模の課題解決に繋がる研究により、持続可能な開発目標の達成に貢献します。

全学的研究ミッション

「地域共生社会の実現に向けた研究の推進と社会実装」



第4期中期目標期間中に特に推進する3つの研究の柱

- 健康寿命日本一に向けた異分野融合研究
- 持続可能な社会を目指した次世代産業の創出
- 多様性を重視した地域社会の基盤構築

3つの研究の柱を軸とした30の研究プロジェクトにより、地域を軸としながらも世界を視野に入れた基盤研究から社会実装までを分野横断的かつ柔軟に推進し、喫緊の課題解決だけでなく確固たる知の集積を着実に実施し、地(知)の拠点としての地位を確立します。

重点研究分野における3つの柱と研究プロジェクト

健康寿命日本一に向けた異分野融合研究

- 生活習慣病及び血管・循環器疾患の予防と治療に関する研究
- がん・難治性疾患の予防と診断・治療に関する研究
- 人獣共通感染症・新興再興感染症制御に向けた基盤研究
- HTLV-1感染症等ウイルス性疾患のメカニズムと治療法開発
- 超高齢化社会における認知症予防等心身機能の維持・回復によるQOLの向上
- 機械知能を利用したQOLの向上と社会への応用
- 遠隔医療の導入と地域医療の高度化
- 精神神経障害の研究と自殺防止
- 体内現象の工学的解釈とその応用
- 食の機能性と安全性評価

持続可能な社会を目指した次世代産業の創出

- カーボンニュートラル達成に貢献する再生可能エネルギー技術とその利用の高効率化
- 電気通信技術の基盤を支える技術要素の高度化
- 有機無機新規機能性材料の開発
- 宇宙・惑星・地球で起こる様々な自然現象の理解
- 農林水産物の品種改良及び生育環境の制御による高品質、高収量化
- 中山間地を含む地域の文化・資源を活用した経済基盤の強化
- 地域の生物資源と自然環境を活用した暖地型農林水産業の活性化
- 生態系サービス発揮機構の解明に基づく持続可能な生態系管理手法の開発
- 生物多様性の評価と保全及びその利活用
- 動植物・微生物の生理的機能及び生体機構の解明
- 動物の新規診断・治療法及び防疫方法の開発

多様性を重視した地域社会の基盤構築

- すべての幼児・児童・生徒に対する学びの創造に関する研究
- 多様なリカレント教育・生涯学習のプログラム開発
- 次世代を育む周産期母子から乳幼児までの総合的ケア
- 出生前から終末期までの医療と社会の円滑なコミュニケーションの実践
- 地域全体を対象としたコホート研究と災害医療を含む包括的医療ネットワークの構築
- 地域社会のニーズに対応する柔軟で強靭な医療人育成実践研究
- 地域農業のスマート化による高効率化
- 地域社会及び環境と調和したレジリエントな社会の構築
- 多文化共生社会における地域・交流・人材マネジメント研究

学部・別科

教育学部

多様な学びを通して、社会に貢献できる教員を目指そう！

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/edu/>



教育学部は、現代の様々な教育課題に対応でき、子供たちの成長をしっかりと支え続け、新しい時代を切り拓く、小学校・中学校・小中一貫校（義務教育学校）・幼稚園・特別支援学校等の教員を養成します。本学部では、コースごとにカリキュラムが組まれ、学校現場の諸問題や児童生徒の心身の諸問題、各教科の内容・指導法を専門的に学びます。それとともに介護体験実習、教育実習といった、教員になるために必要な、より実践的な教職科目も学習します。

課程・コース ●学校教育課程（小中一貫教育コース、教職実践基礎コース、発達支援教育コース）

附属施設 ●附属教育協働開発センター ●附属学校園（附属幼稚園、附属小学校、附属中学校）



医学部

良き医療人材の育成と生命科学分野の研究拠点を目指して

<http://www.med.miyanazi-u.ac.jp/home/>



医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師・医学研究者・看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師・医学研究者の育成を目指しています。看護学科では、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。

学 科 ●医学科 ●看護学科 **附属施設** ●附属病院



工学部

宮崎に根ざし、世界に目を向けた工学部

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/tech/>



工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。また、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。

学科・プログラム ●工学科 応用物質化学プログラム、土木環境工学プログラム、応用物理工学プログラム、電気電子工学プログラム、機械知能工学プログラム、情報通信工学プログラム

学部内センター ●工学基礎教育センター ●環境・エネルギー工学研究センター
●ものづくり教育実践センター ●ICTソリューションセンター ●教育研究支援技術センター



農学部

日本、アジア、そして世界の食料・環境・人や動物の感染症問題の克服を目指して

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/agr/>



農学部は、環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染病克服など、様々な課題に対応できる人材育成を目指し、分野を明確にした6学科を設置しています。各学科が農学部のどの分野での専門職や指導者を育成するかを明確にし、フィールド教育の場（農場、牧場、演習林、水産実験所、動物病院）での実践的教育と研究を進めることで、主体性と創造性に富み、広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。

学 科 ●植物生産環境科学科 ●森林緑地環境科学科 ●応用生物科学科 ●海洋生物環境学科
●畜産草地科学科 ●獣医学科

附属施設 ●附属フィールド科学教育研究センター ●附属動物病院 ●附属農業博物館



地域資源創成学部

地域を創るリーダーになろう！

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/atrium/>



地域資源創成学部では、マネジメントの専門知識と社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識を教授する異分野融合の教育研究力カリキュラムが構築されています。また、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方々と一体となった協働教育を導入しています。持続可能な地域づくりを包括的にマネジメントでき、地域資源を理解し利活用しつつ、ビジネスや地域産業、行政などの現場で革新的な価値を創出できる人材の輩出を目指します。

学科・コース ●地域資源創成学科（企業マネジメントコース、地域産業創出コース、地域創造コース）



別科（畜産別科）

地域農業の担い手として活躍できる人材の育成を目指して

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/chikusan-bekkai/>



最近の農業生産では、単位面積当たりの農業生産効率の向上ばかりではなく、食品の安全性、労働環境の改善や環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践する農業生産工程管理（GAP）の重要性が高まっています。このことから、畜産別科では家畜生産現場の拡大に伴う機械化、省力管理経営形態に対応した人材育成に加え、農業生産工程管理（GAP）も教育要素として取り入れ、幅広い知識と実践を身に付けた人材育成を目指します。家畜人工受精師の資格については、他の機関において開催される講習会を受講することで取得可能です。



教育学研究科

高度の実践力・応用力を有する教員の養成を目指して

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/edu/graduate/>



教育学研究科は、専門職学位課程(教職大学院)として、教職実践開発専攻を設置しています。「教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新人教員」、また、「教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要不可欠な確かな教育理論を備えたスクールリーダー」として、深い学識及び卓越した能力を有した教育の発展に寄与する人材を養成しています。

専攻等

- 教職実践開発専攻【専門職学位課程:教職大学院】
教職実践高度化コース(教育行政・学校経営分野・生徒指導・教育相談分野・教育課程・授業研究分野)、
教科領域指導力高度化コース、特別支援教育コース



看護学研究科

生命の尊厳を第一に、ケアの本質を研究する

<http://www.med.miyanazi-u.ac.jp/home/>



看護学研究科は、変化する地域社会や複雑化する社会情勢の中で、拡大・専門化する看護学や看護学教育の必要性を踏まえ、保健医療福祉の現場で広く活躍できる看護学研究者・教育者・実践者・指導者の育成を目的としています。実践看護者育成コースでは、がん看護専門看護師・助産師の受験資格を得られるカリキュラムを有しています。また、地域社会のニーズに応えるとともに、学際的思考と国際的視野から、その研究成果を世界に向けて発信することにより看護学の発展に寄与することを使命としています。

専攻・コース

- 看護学専攻(研究者育成コース、実践看護者育成コース)



工学研究科

自然豊かな宮崎で未来を切り開く技術者・研究者に

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/tech/departments/master.html>



21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる知識基盤社会の時代と言われています。工学研究科は、学部教育を基盤として、高度化・深化した専門知識・技術を身に付け、さらに隣接する関連領域まで俯瞰できる総合的視野を持つた想像力豊かな高度専門技術者を養成します。留学生も積極的に受け入れており、国際性豊かな教育・研究環境が形成されています。

専攻・コース

- 工学専攻(環境系コース、エネルギー系コース、機械・情報系コース)



農学研究科

専門性の深化と国際性豊かな高度専門人材の育成を目指して

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/agr/departments/gsa-master.html>



農学研究科は、平成26年度に従来の5専攻を改組し、新たに農学専攻(1専攻6コース)を設置しました。同専攻では、学部教育の専門性をさらに深化させ、国内外の食料、環境、資源及び生命に関する問題点を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者及び研究者の育成を目指します。

専攻・コース

- 農学専攻(植物生産環境科学コース、森林緑地環境科学コース、応用生物科学コース、
海洋生物環境科学コース、畜産草地科学コース、農学国際コース)



地域資源創成研究科

持続可能な地域社会を創造する高度専門人材を養成

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/atrium/>



地域資源創成研究科は、地域学、地域資源論、地域資源利活用論の3つの教育研究領域で構成されています。地域に賦存する多様な地域資源の利活用から新しい創造的価値の創出を行い、今後の社会経済環境の変化に対応でき、強靭で持続可能な地域社会の形成を推進・実現することが可能な高度な専門性を有する人材養成を目指します。

専攻等

- 地域資源創成研究科

附属施設

- 附属地域資源情報活用センター



医学獣医学総合研究科

医学と獣医学が完全に融合した

全国唯一の修士・博士研究科

<http://www.med.miyanazi-u.ac.jp/home/ijudaigakuin>



医学獣医学総合研究科は、医学と獣医学それぞれで培われてきた教育・研究実績を踏まえて、それらを連携・融合することにより、今まで得られなかつた両分野における知識、研究能力を身につけることができます。また、グローバル時代の課題である食料問題や新興・再興感染症対策を始めとする医学・獣医学にまたがる諸課題を解決できる人材を養成することも目的としています。このような教育・研究を通して、本研究科が立地する畜産基地からの要請に応えるとともに、人類の健康と福祉の向上に貢献します。

専攻等

- 医科学獣医学専攻【修士課程】(生命科学研究者育成コース、
高度医療関連技師・サービスイノベーション人材養成コース、生命倫理コーディネーターコース)
- 医学獣医学専攻【博士課程】(高度臨床医育成コース、高度獣医師育成コース、研究者育成コース)



農学工学総合研究科

農学と工学が融合・深化した

博士後期課程で最先端の研究を！

https://www.miyanazi-u.ac.jp/tech/agr_eng/index.html



農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者・研究者の養成を行ふために3専攻を設置し、融合型教育プログラムを提供しています。また、社会人として経験を活かしながら高度な技術や知識を習得しようとしている人材や外国人留学生を積極的に受け入れています。

専攻・コース

- 資源環境科学専攻(環境共生科学教育コース、持続生産科学教育コース)
- 生物機能応用科学専攻(生命機能科学教育コース、水域生物科学教育コース)
- 物質・情報工学専攻(新材料エネルギー工学教育コース、生産工学教育コース、数理情報工学教育コース)



機構・センター・施設等

■ 学び・学生支援機構

学部及び大学院等の各教育プログラムと連携した教学マネジメント及び入学者選抜を通して、教育の質を保証し、学修者自身が課題を見出し、解決に必要となる知識や技能等を求める学びを支援します。また、高等教育機関や産業界等の地域と共に働くことで、多様で豊かな学びを経験できる機会を企画及び運営することを目的とします。さらに、本学学生が安心して学修できるよう、就職及び進学を含む学生生活全般を支援します。

| 教学マネジメント部門

| 数理・データサイエンス部門

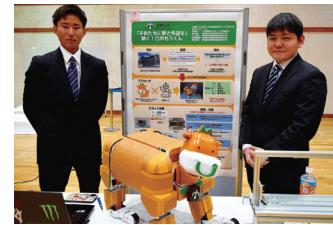
| 学生支援部門

| 基礎教育部門

| 地域人材部門

| アドミッション部門

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/manabi/>



■ 研究・产学地域連携推進機構

研究・产学地域連携推進機構は、本学における理念、基本方針等に基づいて、研究の活性化及び高度化に係る施策の企画、実施、研究活動の支援等を行います。また、国内外の機関や企業等との産学連携事業の推進、支援並びに研究成果の活用、社会還元を進め、地域社会や産業の振興に寄与することを推進します。

| 研究推進部門

| 研究基盤支援部門

| 知的財産・研究リスクマネジメント部門

| 産学・地域連携部門

| ヘルスケア研究部門

<http://www.miyanazi-u.ac.jp/kscrs/>



■ テニュアトラック推進室

テニュアトラック(TT)制とは、採用された若手研究者が5年の任期内に研究主宰者として研鑽を積んだ後、審査を経て任期がないテニュア教員として採用されるキャリアパスのことです。本学は、重点的教育研究分野の優秀な教員を育成する目的でTT推進室を設置し、これまでに15名の優秀な若手研究者を学部に輩出しています。本事業への評価は高く、全国的なTT制のロールモデルとなっています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/ttkikou/>



宮崎大学のテニュアトラック制度 ? (TT制度)

教育研究組織の活性化を図るため、公正で透明性の高い選抜により採用された若手研究者（40歳未満）が、任期付の雇用形態で既立した研究者として原則5年の経験を積んだ後で、厳正な審査を経て「**テュニア教員**（任期の制限のない職）」として採用されるキャリアパスシステム

- スタートアップ資金
- 研究スタート支援
- 研究会員登録

TT教員の所属は学部
ではなくTT推進室
でなくともなったら
学部所属

■ 次世代研究者支援室

次世代研究者支援室は、国立研究開発法人科学技術振興機構の次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援を受けて実施する次世代研究者支援事業の下、優秀な博士後期課程学生に、研究奨励費（月額18万円）及び研究費（年額40～70万円）を支給することにより、学術研究に専念できる環境を提供します。トランスファラブルスキル（職種・地域・業界を超えて活用できる汎用性の高いスキル）と厳しい環境下でも負けない強さを身につけた次世代研究者を育成・支援しています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/jisedai/>



■ 国際連携機構

国際連携センター

国際連携センターは、本学の「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、4つの柱（①学術・研究者交流、②学生交流、③国際協力・国際貢献、④地域の国際化への貢献）を推進しています。学生交流では、24の国・地域から141名の外国人留学生が学び、日本人学生の海外留学、海外語学研修、海外ボランティアも年々増えています。当センターでは、海外の大学等との連携、外国人留学生や留学希望者に対する学修、生活、留学相談、アドバイジング等の支援を充実するため、ワンストップサービスを実施しています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/kokusai/>



■ 多言語多文化教育研究センター

多言語多文化教育研究センターは、各国の言語や文化に関する研究に基づく教育を推進し、国際性豊かな人材を育成するとともに、その成果を還元することにより社会の発展に寄与することを目的としています。関係部局と連携して専門分野を含めた多言語多文化に関する様々なプログラムを企画・実施し、学生・教職員を対象に課外語学プログラムの開講、資格試験や留学・研修に向けた語学学習の指導、異文化理解を促す取り組み等を積極的に行ってています。外国人留学生の学習や生活を支える日本語教育にも力を入れています。

https://www.miyanazi_u.ac.jp/language/

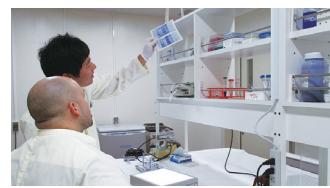


学内共同教育研究施設

| フロンティア科学総合研究センター

フロンティア科学総合研究センターは、生理活性物質研究部門、感染症免疫研究部門、実験支援部門、プロジェクト研究部門の4部門で構成されます。生命科学を始めとする宮崎大学の重点領域研究および異分野融合研究を推進しつつ、学内外の教育研究活動の幅広い支援を行っており、外部資金に基づく研究チームや大型プロジェクト等を、プロジェクト研究部門のもとに設置可能な体制となっています。木花キャンパスと清武キャンパスにまたがるフロンティア科学総合研究センターは、学部や研究科の枠を超えた組織として、宮崎大学における生命科学等の研究の原動力となるべく、教育研究活動とその支援を行っています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/frontier/>



| 産業動物防疫リサーチセンター

産業動物防疫リサーチセンターは、国内有数の畜産県である宮崎県に立地しているという特色を踏まえ、産学官と連携して次世代・近未来型の防疫戦略を創出するため、異分野融合を軸にした研究を行っています。また、アジアを中心とする海外の大学や研究機関との連携を強化し、畜産フィールドと直結した実践的かつグローバル化時代に対応した防疫戦略の構築や産業動物防疫に関する世界水準の研究・人材育成拠点の形成を目指しています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/cadic/>



| IRセンター

IR(Institutional Research)とは、大学で蓄積された様々なデータを収集し、戦略的に大学運営を進めるための根拠となるデータを分析して、大学の機能強化や意志決定を支える情報戦略活動のことです。IRセンターは、「教学部門」「学術研究部門」「経営戦略部門」の3つの部門を設置し、大学の現状の可視化や評価のための資料作成など様々な場面で活用できるデータの収集・蓄積と各種分析を行っています。また、情報の流通性と付加価値の向上に取り組み、効率的な業務活動の展開を支援しています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/ircenter/>



学内組織

| 安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートするとともに、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病や心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。また、実験・研究中の事故を防止するための啓発活動や安全マニュアルの策定等も行っています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/anzen/>



| 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、障がいや疾患及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける学生に対し、学内外の関係部局等と連携を図りながら、円滑な修学が可能となるよう支援しています。

◆主な業務は次のとおりです。

- ①修学支援に関するガイドラインの策定
- ②支援方法の提案・調整
- ③学生・教職員の支援の相談窓口、支援の理解、啓発活動
- ④情報の一元化・支援情報の公開
- ⑤施設設備のバリアフリー化
- ⑥各部局で行われる支援のサポート

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/accessibility/>



| 情報基盤センター

情報基盤センターは、大学全体の情報施策の立案・策定・実施・点検及び情報ネットワークや情報システム等、情報基盤の整備・更新・運用管理を行っています。また、情報資産を安全で高い信頼性をもって運用するために、サイバー攻撃に対する技術的な対策を実施するとともに運用者及び利用者への情報セキュリティ教育や技術的支援等を行っています。学内で発生した情報セキュリティ事故に対してはCSIRT(シーサート:情報セキュリティインシデント対応チーム)として迅速に対応します。

<https://www.cc.miyanazi-u.ac.jp/>



| 清花アテナDEI推進室

木花・清武の両キャンパスにオフィスを設置する清花アテナDEI推進室は、セミナーの開催や支援制度の運用、相談対応などを通じたDEI(=diversity, equity, inclusion)推進により、「誰もが学びやすい、働きやすい環境」の実現を目指しています。また、「女子高校生のためのサイエンス体験講座」など学外の方が参加できるイベントや、学外団体等との連携により地域におけるダイバーシティ推進やジェンダーギャップ解消にも取り組んでいます。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/kiyohana/>



附属施設

附属図書館

附属図書館は、本館(木花キャンパス)と医学分館(清武キャンパス)から構成されており、本学における知の拠点として教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館では、学生用図書の充実、電子ジャーナルの整備、学術リポジトリの拡充、文献検索講習会の開催、ラーニングコモンズ等の設備充実に努めているほか、地域の方への図書館利用や県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図る取組を行っています。

<https://www.lib.miyazaki-u.ac.jp>



教育学部附属教育協働開発センター

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/center/>



附属教育協働開発センターは、宮崎県内の学校や教育委員会、地域社会と連携を図り、実践的指導力を持つ教員の養成及び現職教員の研修等に関する開発や教育研究の推進、学校教育における教育実践に関する研究を総合的に行うことを通して、学部、大学院及び地域社会における教育の発展充実に寄与することを目指しています。教師教育部門と授業研究部門の2部門があり、紀要の発刊と宮崎県教育庁派遣研究生等の受入れに加えて、宮崎県教育研修センターとの協働、市町村教育委員会との連携事業や学校を単位とした授業研究などに取り組んでいます。

教育学部附属学校園

附属学校として、小学校、中学校及び幼稚園を設置しています。附属学校の役割は大きく二つに分けられます。一つは学部・研究科の教員養成カリキュラムの中核にある教育実習を指導することです。もう一つは学部・研究科と共同・連携して、教育課程、指導内容・方法、異学校種間の接続教育および一貫教育の在り方について先導的・実験的な研究を行うことです。そして研究成果を公開研究会で発表したり、教員研修プログラムの内容として取り入れたりして、教師の資質向上に取り組んでいます。これらの取り組みを宮崎県や市町村の教育委員会とも連携して実施することによって、地域の教育の質の向上に寄与しています。



医学部附属病院

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/hospital/>



医学部附属病院は、総病床数632床を有する宮崎県における中核的医療機関です。平成6年には特定機能病院の指定を受け、30の診療科とそれぞれの中央診療部門には、最新の医療機器と優秀な医療スタッフをそろえ、医療内容の高度化、多様化に加え、時とともに変わる疾病構造の変化にも適切に対応できる体制を整えています。また、病診・連携を深め、地域の医療機関からの紹介患者さんを中心に、2次医療、3次医療を取り組んでいます。一方で県内の医育機関として、卒後2年間の初期臨床研修、それに続く専門医研修並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修及び看護師特定行為の研修も行っています。

- | | |
|-------|--|
| 本院の理念 | ●診療、教育、研究を通して社会に貢献します。 |
| 基本方針 | ●患者さんを医療チームの一員とする良質な医療の実践 ●地域の医療連携強化と最後の砦としての覚悟
●臨床研究の推進による先端医療の開発と提供 ●人間性豊かな倫理性の高い医療人の育成
●お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備 |

農学部附属フィールド科学教育研究センター

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/fsce/index.htm>



附属フィールド科学教育研究センターは、木花フィールド(農場)、住吉フィールド(牧場)、田野フィールド(演習林)および延岡フィールド(水産実験所)の4施設からなります。学科実習および卒業・修士論文などの教育や、本学教員や学外の研究機関からの研究に利用されています。牧場と演習林は文部科学省教育関係共同利用拠点に認定されており、他大学の実習を積極的に受け入れています。農場と牧場はJGAP、演習林はSGECといった生産物認証を取得しており、適切な工程管理に基づいた農林畜産物の生産技術を学ぶことが出来ます。また、公開講座などの地域社会貢献活動も盛んに行っており、生産物販売をはじめとする大学開放事業を秋に開催しています。

農学部附属動物病院

https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/vet_hosp/index.html



附属動物病院は、昭和28年の設立以来、臨床獣医学の教育研究の場および卒後研修の場として、そして地域の中核となる動物診療機関としての役割を担ってきました。平成19年度以降は専門性を備えた高度獣医療を提供する二次診療施設(地域の動物病院や診療機関から紹介を受けた動物を診療する施設)となりました。

本院は、病気を患つた伴侶動物(犬、猫)はもとより、宮崎県が全国を代表する黒毛和種牛の生産地でもあることから、牛の繁殖障害、代謝障害、骨折・脱臼や臍ヘルニアなどの外科疾患も積極的に受け入れ、最新の研究成果や技術を取り入れた診療を行っています。



| 農学部附属農業博物館

農学部附属農業博物館は昭和10年に、宮崎高等農林学校（農学部の前身）の開校10周年記念事業として、旧船塚キャンパス（宮崎市船塚町）に設置されたことに始まります。現在の博物館は昭和61年に完成し、平成17年に博物館相当施設の指定を受けています。

本館では、農・林・畜・水産業に関する資料の展示と大学の最新の研究とその成果を紹介しています。また、分館の講義室や実験室では、学芸員養成教育や地域の方を対象とした講座等を行っています。

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/museum>



| 地域資源創成学研究科附属地域資源情報活用センター

地域資源情報活用センターは、地域に伝承される民俗・歴史資料を収集・デジタル化して公開し、地域づくりへの活用を推進する参加型情報ネットワーク拠点として設置されました。「伝承」は、衣・食・住をはじめ、地域組織や制度、人生儀礼、信仰、年中行事など生活全体にわたるシステムをつくってきました。「伝承」からの学びを通して地域生活を総合的にデザインし、持続可能性・生活の質の再構築から成る、個性的な地域の発展に寄与していくことを目指しています。

<https://auv.vss.miyanazi-u.ac.jp/>



学内施設

| 創立330記念交流会館

宮崎大学創立330記念交流会館は平成26年に、教育学部が創立130周年、農学部が同90周年、工学部が同70周年そして医学部が同40周年の節目を迎えるに当たり、4学部の歴史（周年）を合計した330を冠した宮崎大学創立330（サンサンマル）記念事業の一環として計画されたもので、宮崎県産のスギ材を主体としたユニークな木造建築物として平成26年11月に完成しました。本会館は、学び・学生支援機構や売店など学生サービスの拠点機能のほか、会議室や最大300名収容可能なホールを備え、公開講座や講演会、文化交流活動等の開催など、地域における生涯学習の振興の一助ともなり得るコミュニティセンターの機能も有しています。



| 地域デザイン棟

平成29年10月30日に米良電機産業株式会社（宮崎市）の寄附により、宮崎大学のコアエリアに、地域・企業・学生が24時間フルオープンで交流する場として新設されました。開放的でスタイリッシュなデザインも含め、学内外から今注目を集めるスポットです。セミナーや講義、学習のためのStudio、会議、打合せのためのMeeting Room、学内外の情報や最先端研究成果を映すMIYADAI DISPLAY、MIYADAI PREMIUM NEWSなどを配置しています。学内外を問わず、誰でも自由に利活用できる、产学官連携の拠点施設です。



| イスラーム文化研究交流棟

イスラーム文化研究交流棟は本学の国際化を推進する戦略の一環として、平成26年に整備された施設です。宮崎大学のグローバル化（急速に経済発展するイスラーム圏からの優秀な外国人留学生の受け入れ）及び宮崎県が掲げるフードビジネス推進の一助として、イスラーム圏を対象としたハラル食品並びにイスラーム文化の研究、イスラーム圏との貿易促進等に必要な情報交換及び文化交流が行われています。



地域貢献(産学官連携・地域連携)

| 県内市町村との連携事業

県内市町村等と連携・協力に関する包括協定を締結し、地域の特色を生かした地域活性化事業を様々なアプローチから実施し、地域の振興に貢献しています。



「綾町・大学連携事業年次報告会」の様子

| 都農町寄附講座

令和2年4月に一般財団法人つの未来まちづくり推進機構(都農町)の寄附により、都農町内に、医学部と地域資源創成学部の2講座を設置しています。本学として県内の町村に単独で寄附講座を開設するのは初の試みで、各講座2名の教員が専任で、都農町の課題解決に繋がる教育・研究・実践に取り組んでいます。



地域資源創成学部実習の様子

| 公開講座等を通じた地域への開放

多様化する学びの要請に応えるため、例年35件以上の公開講座を実施し、1000人以上の方に受講していただいております。また、毎年11月には、学生主催のイベントである大学祭と同時開催で大学開放事業「みやだい Waku Waku 体験Day」を実施し、子ども向け講座や農産物販売などの各種イベントを実施しています。



公開講座「まちなかカレッジ」の様子

| 産学金労官が連携した人材育成・確保

県、産業界・大学等から集結したメンバーによるプロジェクトチームが、宮崎県の「Do & Think Tank」拠点として“世代を超えた学びの具体化”を大きなテーマに人材の育成と確保に戦略的に取り組みます。



「組織ビジョン・ミッション ワークショップ」の様子

| 一般社団法人 高等教育コンソーシアム宮崎

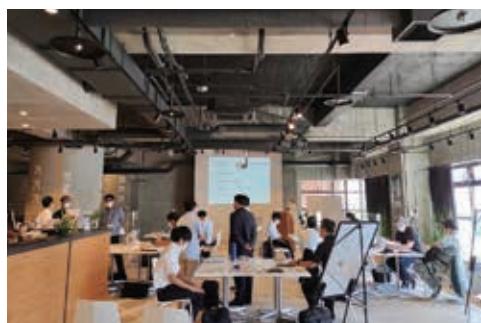
県内高等教育全体の質的向上と地域の教育・学術研究の充実・発展を図るために、宮崎県の11高等教育機関が相互に連携・協力し、公募型卒業研究テーマ事業、単位互換事業、FD・SD活動などを実施しています。



「公募による卒業研究テーマ発表会」の様子

| 社会人を対象とした人材育成プログラムの実施

これからの中崎をリードする産業人材育成プログラム「ひなたMBA(みやざきビジネスアカデミー)」を宮崎県からの委託を受け実施するなど、社会人向けのビジネススキルの向上や、先の見えない変化の激しい社会において、変化に対応し、新たな価値を創造できる人材が育つ環境づくりを推進します。



ひなたMBAの様子

| 産学官連携推進事業

産学官連携によるイノベーションの創出を目指し、「技術・研究発表交流会」や「マッチングのためのラウンドテーブル」など、年間を通じて教員と企業等を結ぶ様々なマッチング活動を行っています。



「マッチングのためのラウンドテーブル」の様子

| 高度な分析機器の利用による研究支援

高度な分析機器を研究・産学地域連携推進機構研究基盤支援部門に集約し、学内外に対して研究・技術開発に必要となる各種試験等を提供しています。また、宮崎県内の公設試験研究機関を含む分析機関との連携を推進するため、「みやざきファシリティネットワーク」を主導・運営し、本学の研究基盤の強化を図りながら地域の課題に一層応え得る体制を構築しています。



令和5年度 第1回みやざきファシリティネットワーク運営委員会

| 大学発ベンチャー企業の育成及び支援

本学との共同研究などにより創出された成果を基にベンチャー企業を立ち上げた場合、「大学発ベンチャー」として認定しており、一定期間、学内の研究室等を低廉で利用できる支援等を行っています。令和3年11月には、複数のベンチャー企業が入居でき、オンラインでの会議や打合せなどができる設備を備えた「大学発ベンチャーシェアオフィス」を新設し、ベンチャー支援を推進しています。



大学発ベンチャーシェアオフィスの様子

| 知的財産に係る技術移転及び実用化の推進

本学で創出された知的財産を社会に還元するため、各種イベントへの出展や九州産業界等と連携したGAPファンド参画などを通じて、技術移転、実用化、大学発ベンチャーの創出を推進しています。



Bio Japanでの技術紹介

| ミヤダイミライ塾

米良電機産業株式会社からの寄附により設置された寄附講座「地域デザイン講座」(平成29~令和3年度)の活動を引き継ぎ、令和4年度からは、「ミヤダイミライ塾」として新たにスタートしました。地方創生やDXなどをテーマに、地域や企業、学生及び大学関係者による交流の場の提供と情報発信を行っています。



ミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」の様子

| 宮崎・学生ビジネスプランコンテスト

宮崎県内の大学・短大・高専生(4年生以上)が挑戦できる場として、自身の想いを形にして他人に伝える力、起業家精神の教育に力を置くコンテストを、テレビ宮崎、宮崎銀行との連携により実施しています。参加学生からは「文部科学大臣賞」受賞者や実際に起業する事例も出てくるなど、注目される取組です。



第3回 宮崎・学生ビジネスコンテスト
決勝プレゼンテーションの様子

国際交流

宮崎大学では、文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構(JICA)及び各種機関の助成等により、多くの研究者が海外に派遣されており、外国人研修員等も積極的に受け入れています。また、研究者だけでなく、24の国・地域から国費・私費・外国政府派遣の外国人留学生141名を受け入れ、グローバルな学習環境のもとで、未来を担う人材の育成に努めています。

| 学術・学生交流協定

全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、東南アジアを中心として、31の国や地域の144大学等と交流協定を締結しています。うち、102大学とは学生交流覚書を締結し、活発な学生交流を図っています。

学生相互交流①:大学間交流協定校

大学間交流協定校であるベトナムのベトナム国立農業大学、中国の南京農業大学、台湾の東吳大学との間で1~2週間程度のプログラムによる学生交流を実施しています。



学生相互交流②:部局間交流協定校

医学部とタイのプリンス・オブ・ソンクラ大学、中国の上海交通大学医学院、温州医科大学、台湾の国立成功大学医学院並びにイタリアのカリアリ大学との間で、医学科、看護学科の学生を対象とした1ヶ月程度の短期交換留学プログラムを実施しています。



| 留学生・研究者の受入

JICA等と連携し、外国人留学生の受入を積極的に行ってています。農学研究科修士課程では、「アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト(通称:PEACEプロジェクト)」において、これまで30名以上のアフガニスタン学生を受け入れており、農学分野における実績は国内トップです。また、工学研究科修士課程においては、ミャンマーやインドネシアの大学とのダブルディグリープログラムを実施するなど特色ある教育を行っています。さらに、年間を通じて、短期留学生の受入プログラムも実施しています。

さくらサイエンスプログラム

平成26年度から始まった科学技術振興機構(JST)の本事業においては、これまでにミャンマー、モンゴル、ベトナム、タイ、中国、インド、インドネシア、韓国、スリランカ、ペルーから769名を招聘し、10日~3週間程度の研修を行っています。本事業の採択件数は、国公私立大学の中でトップクラスです。



| 学生・研究者の海外派遣

学生交流覚書を締結している大学に学生を派遣しています。協定による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。さらに、留学先で修得した単位を本学の単位とすることができます。また、文部科学省の「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラム～」や、JICAの「草の根技術協力事業」等を積極的に活用し、学生や若手研究者を多く海外に派遣しています。

サテライトオフィス

| まちなかキャンパス

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/facilities/related-facility/machinaka-campus.html>



地域課題の解決にむけた取組をより一層推進することを目的に、地域連携活動の拠点及びまちおこしのフィールドとして、平成29年2月に若草通りアーケード内に設置しました。また、県内の11高等教育機関で構成する「高等教育コンソーシアム宮崎」の事務局分室も設置しており、高校生が県内高等教育機関の入試情報などを得ることができるほか、大学生や企業関係者が交流する拠点としても活用されています。



| 日南デスク

まちなかキャンパス同様に、地域課題の解決にむけた取組をより一層推進することを目的として、平成29年6月に日南市創客創人センター内に設置しました。日南市内の高校生が簡単に宮崎大学の入試情報などを入手できるほか、本学教職員が出向いて公開講座を実施するなど、県南在住の方に幅広く学びの場を提供しています。



| 海外オフィス

<https://www.miyanazi-u.ac.jp/facilities/related-facility/overseas-offices-ja.html>



本学と海外の大学等との教育及び研究活動における連携強化や海外における広報活動、学術情報の発信及び収集等を行うため、4ヶ国5ヶ所に海外拠点オフィスを設置しています。

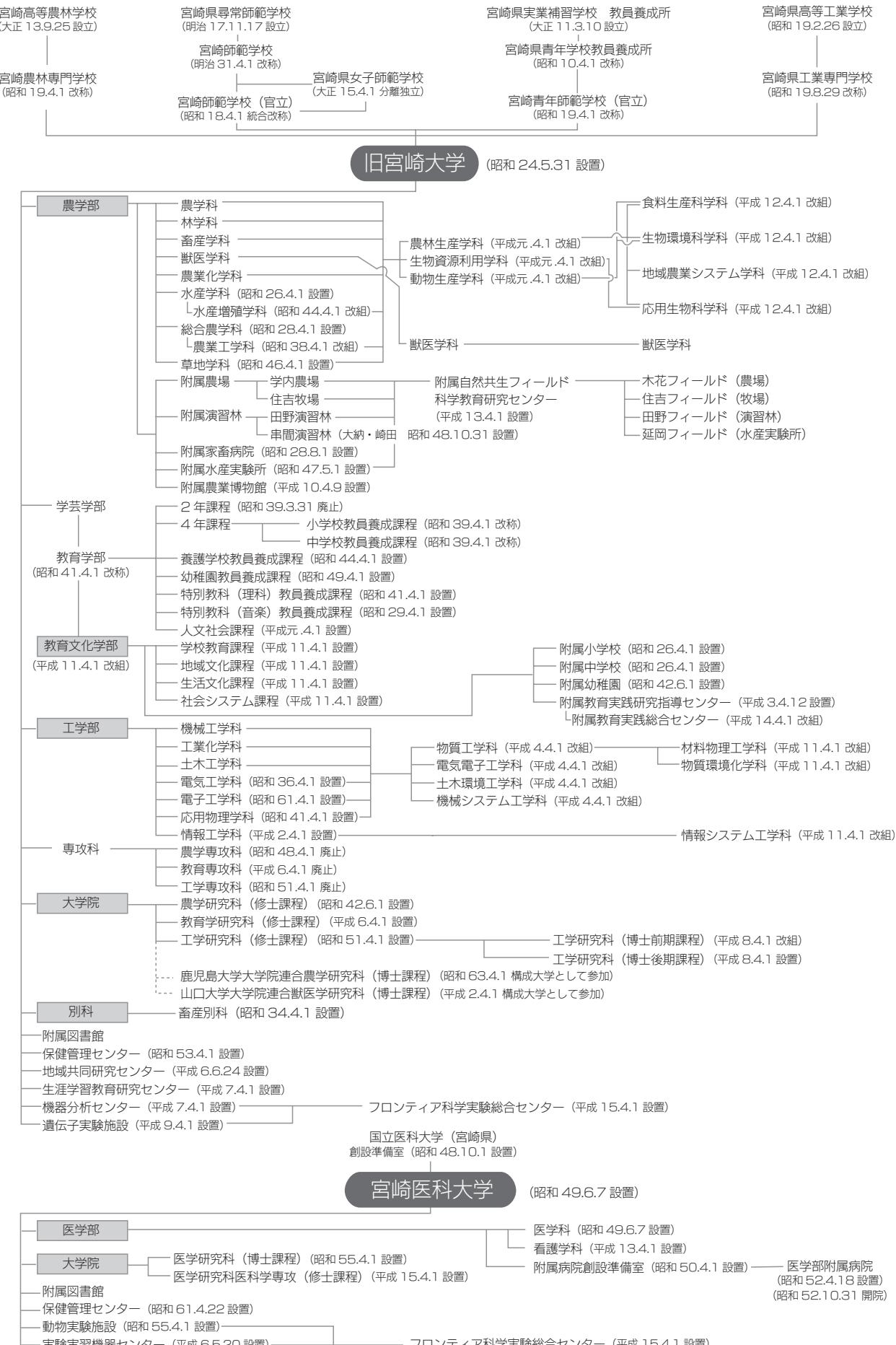
- インドネシア(ブラウィジャヤ大学・ガジャマダ大学)
- ミャンマー(ヤンゴンコンピュータ大学)
- ベトナム(ベトナム国立農業大学)
- バングラデシュ(ノースサウス大学)



資料編

資料編 CONTENTS

沿革	15
沿革[年表]	17
機構図	21
役職員	22
職員数	23
歴代学長	23
学部	24
大学院・寄附講座・共同研究講座	25
附属図書館	26
医学部附属病院	27
学生・生徒・児童及び園児数	28
令和5年度入学状況	31
卒業者・修了者数	33
博士の学位授与者数	34
令和4年度就職状況	35
奨学生状況	36
国際交流	37
海外連携協定機関	38
国内連携協定機関	40
令和4年度公開講座実施状況	41
令和4年度経理状況	42
学生関係施設	44
土地・建物	45
施設所在地	46





太字は現在の組織を示す。

沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
7.18	第1回入学式挙行、授業開始	
S26. 4. 1	学芸学部に附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 3. 8	開学記念式典挙行	
3.10	第1回卒業式挙行	
4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、 それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39. 3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校 教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に 応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部養護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地学科を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10. 1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を 設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部幼稚園教員養成課程を設置	
6. 7		宮崎医科大学の設置 (国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止)
7. 4		第1回入学式挙行
7.29		開学記念式典挙行
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.29		宮崎医科大学竣工・医学部附属病院開院記念祝典挙行
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
5.31	宮崎大学創立30周年記念式典挙行	
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部 省告示）	
S55. 3.25		第1回卒業式挙行
S55. 4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置

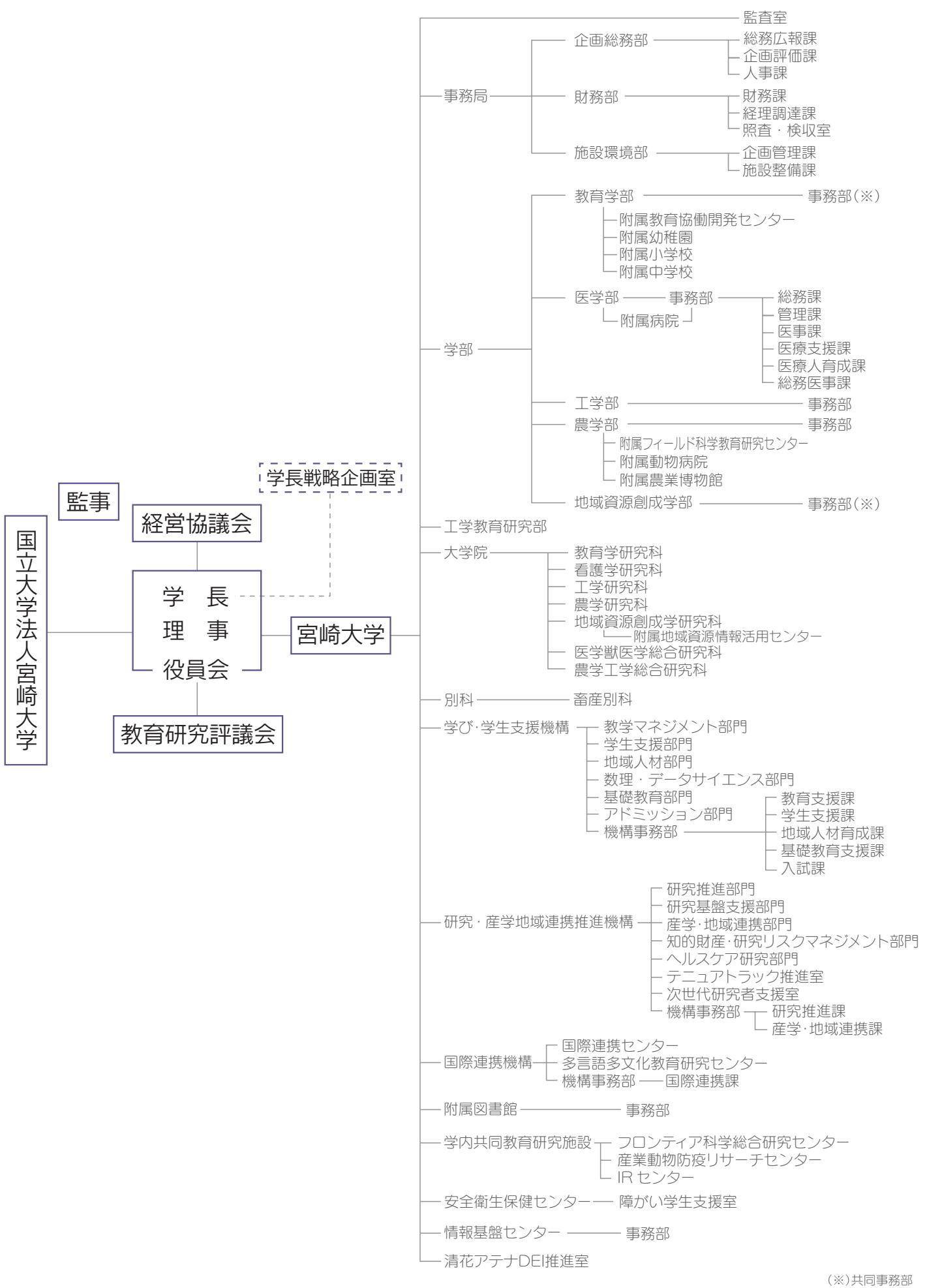
年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S59. 6. 7		宮崎医科大学開学 10 周年記念式典挙行
11.19	農学部第 1 次移転完了	
S60. 1.24	農学部第 2 次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
5.23	事務局・学生部移転記念式典挙行	
9.13	工学部及び計算機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	
10.31		医学部附属病院開院 10 周年記念式典挙行
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	
11.11	移転完了記念式典・祝賀会挙行	
H 2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
6. 8		医学部附属病院救急部を設置
H 3. 4.12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H 4. 4. 1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4.10		医学部附属病院集中治療部を設置
H 6. 4. 1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5.20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6.24	地域共同研究センターを設置	
10. 1		特定機能病院として承認
10.29		宮崎医科大学開学 20 周年記念式典挙行
H 7. 4. 1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H 8. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H 9. 4. 1	遺伝子実験施設を設置	
11.14		医学部附属病院開院 20 周年記念式典挙行
H10. 4. 1		医学部附属病院病理部を設置
4. 9	農学部附属農業博物館を設置	
H11. 4. 1	教育学部を改組し、教育文化学部に改称 工学部改組	情報処理センターを設置
H11. 5.28	宮崎大学創立 50 周年記念式典挙行	
H12. 4. 1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H13. 4. 1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
6. 5		医学部看護学科開設記念式典挙行
12.14	総合研究棟を新築	
H14. 4. 1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合センターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H15. 2.17		病院機能評価認定
4. 1	フロンティア科学実験総合センターを設置 (機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソotopeセンターを廃止)	大学院医学研究科医科学専攻(修士課程)を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 (動物実験施設、実験実習機器センターを廃止)

年月日	宮崎大学
H15.10. 1	旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」を設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止
H16. 3.26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部(カリーノ宮崎8階ガガエイト)に設置 総合教育研究棟を新築(清武キャンパス)
4. 1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる
H17. 4. 1	保健管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻(修士課程)を設置
H18. 4. 1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置 医学部附属病院再整備開始
H19. 4. 1	大学院工学研究科(博士後期課程)を廃止し、農学工学総合研究科(博士後期課程)を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)から農学部が離脱 大学院工学研究科(博士前期課程)を大学院工学研究科(修士課程)に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称 宮崎大学くすの木保育園を開園
8. 1	情報戦略室を設置
11. 1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置
12.26	医学部附属病院橋通り歯科口腔外科クリニックを設置
H20. 2. 8	都道府県がん診療連携拠点病院に指定
4. 1	大学院教育学研究科(専門職学位課程)を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科(博士課程)を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置
11.15	木花キャンパス移転20周年記念事業挙行
H21. 7.24	医学部附属病院が肝疾患診療連携拠点病院に指定
H22. 4. 1	大学院医学系研究科(博士課程)を廃止し、医学獣医学総合研究科(博士課程)を設置 大学院医学系研究科(修士課程)を医科学看護学研究科(修士課程)に改称 医学部地域医療学講座を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科(博士課程)から離脱 農学部を改組
H22. 5. 6	医学部附属病院新外来診療棟で診療を開始
8. 4	サテライト・オフィスを宮崎市中心部(橋通西3丁目MCCビル1階)に移転
10. 1	産学連携センター及び教育研究・地域連携センターを改組し、産学・地域連携センター及び教育・学生支援センターを設置 情報戦略室と情報支援センターを統合し、情報基盤センターを設置 農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを農学部附属フィールド科学教育研究センターに改称
H23.10. 1	産業動物防疫リサーチセンターを設置 医学部附属病院地域総合医育成センターを設置
H24. 2. 1	医学部血液・血管先端医療学講座(寄附講座)を設置
3.21	医学部血液・血管先端医療学講座(寄附講座)の県北拠点を宮崎県立延岡病院に設置
4. 1	工学部を改組 医学部附属病院救命救急センターを設置
4.18	医学部附属病院において、ドクターヘリの運航を開始
H25. 3. 1	医学部附属病院救命救急センター棟を設置
3.31	医学部附属病院再整備完了
4. 1	医学部附属病院地域総合医育成サテライトセンターを宮崎県立日南病院内に設置

年月日	宮崎大学
7. 1	語学教育センターを設置
10. 1	IR推進センターを設置 教育文化学部附属教育実践総合開発センターを改組し、教育文化学部附属教育協働開発センターを設置
10.19	創立330記念事業統合10周年記念講演会・式典・祝賀会を開催
11.21	産業動物教育研究センターを設置
H26. 4. 1	大学院医科学看護学研究科（修士課程）を廃止し、看護学研究科（修士課程）及び医学獣医学総合研究科（修士課程）を設置 大学院農学研究科（修士課程）を改組 医学部地域医療学講座を地域医療・総合診療医学講座に改称
4.14	医学部附属病院において、ドクターカーの運行を開始
11. 8	創立330記念事業（落成式、記念式典・祝賀会）を開催
H27. 4. 1	障がい学生支援室を設置 宮崎市立田野病院及び宮崎市介護老人保健施設さざんか苑の指定管理運営を開始 宮崎大学医学部附属病院コミュニティ・メディカルセンターを開設
10. 1	医療人育成支援センターを設置
H28. 4. 1	地域資源創成学部を設置 教育文化学部を教育学部に改称 大学院工学研究科（修士課程）を改組
H29. 2. 1	サテライト・オフィスを廃止し、宮崎大学まちなかキャンパスを宮崎市中心部（橘通東3丁目村武ビル1階）に設置
4. 1	産学・地域連携センター地域デザイン講座（寄附講座）を設置
H30.10. 1	農学部 MIYADAI TAIYO Aoifarm Lab（共同研究講座）を設置 医学部宮崎小児地域医療学・次世代育成支援講座（寄附講座）を設置 医学部附属病院にIVRセンターを設置 医学部附属病院に臨床腫瘍科を設置
H31. 2.20	医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニックを閉院
R 1.11. 1	医学部医療環境イノベーション講座 Collaboration Labo. M&N（共同研究講座）を設置
R 2. 1. 1	フロンティア科学実験総合センターを改組し、フロンティア科学総合研究センターを設置 安全衛生保健センターに障がい学生支援室を移管し改組 語学教育センターを多言語多文化教育研究センターに改称 学術情報統括機構を設置し、情報基盤センター及び附属図書館を配置
1. 9	附属図書館医学分館がリニューアルオープン
4. 1	大学院地域資源創成学研究科を設置 大学院地域資源創成学研究科附属地域資源情報活用センターを設置 大学院教育学研究科（専門職学位課程）を改組 大学院教育学研究科（修士課程）を廃止 産学・地域連携センターを改組 医学部地域包括ケア・総合診療医学講座（寄附講座）を設置 地域資源創成学部地域経営学講座（寄附講座）を設置
5. 1	医学部生体制御医学研究講座（共同研究講座）を設置
7.15	附属図書館本館がリニューアルオープン
9.29	医学部附属病院患者付添者等宿泊施設「宮崎ドライビングスクール presents THE CROSS ROADS」を設置
R 3. 4. 1	工学部を改組 医学部災害医療・救急医療支援講座（寄附講座）を設置 国際連携センター外国人ICT技術者人材育成学講座（寄附講座）を設置 医療人育成支援センターを医療人育成推進センターに改称 医学部附属病院に難病・アレルギーセンターを設置 医学部附属病院に診療情報管理部を設置
6. 1	農学部先端バイオ素材創生学講座（共同研究講座）を設置
R 4. 3.31	宮崎市介護老人保健施設さざんか苑の閉苑 病院IR部（前・医療情報部）を廃止
4. 1	医学部附属病院膠原病・感染症内科を膠原病内科、感染症内科に再編
7. 1	IR推進センターをIRセンターに改称
10. 1	基礎教育部、教育・学生支援センター、産学・地域連携センターを改組し、学び・学生支援機構、研究・産学地域連携推進機構を設置 国際連携機構を設置し、国際連携センター及び多言語多文化教育研究センターを配置
R 5. 4. 6	宮崎大学医学部附属病院 看護師特定行為研修センターを開設
7. 1	学術情報統括機構を廃止（情報基盤センター及び附属図書館は大学直下に配置） 清花アテナDEI推進室を設置

機構図



役職員

学長		鮫島 浩	◎●○
理事	副学長 (研究・企画担当)	片岡 寛章	◎●○
	副学長 (教育・学生担当)	新地 辰朗	◎●○
	医学部附属病院長 (病院担当)	帖佐 悅男	◎●○
	副学長 (人事・基金・SDGs担当)	明石 良	◎●○
	事務局長 (総務担当)	佐藤 一仁	◎●○
	法務担当	日野 直彦	○
	広報戦略担当	河野 愛	○
監事		中田 哲朗	
		川島 秀文	
経営協議会 学外委員	ANAホールディングス株式会社特別顧問	伊東信一郎	●
	(公社)宮崎県医師会長	河野 雅行	●
	元九州保健福祉大学副学長	坂 佳代子	●
	(株)宮崎銀行取締役頭取	杉田 浩二	●
	㈱宮崎日日新聞社代表取締役会長	町川 安久	●
	元旭化成(株)取締役兼常務執行役員	水永 正憲	●
	(一社)宮崎県商工会議所連合会会頭	米良 充典	●
学長顧問	前宮崎大学長	池ノ上 克	
理事補佐	テニュアトラック推進・ 男女共同参画推進担当	伊達 紫	
	看護部担当	久保 敦子	
	DX担当	新村 芳人	
	教学マネジメント・学生支援担当	白上 努	
副学長	(目標・評価担当)	酒井 剛	○
	(入試担当)	中林 健一	○
	(基礎教育担当)	石川千佳子	○
	(産学・地域連携担当)	淡野 公一	○
	(国際連携担当)	村上 啓介	○
教育研究 評議会評議員	教育学部教授	添田 佳伸	○
	医学部教授	七島 篤志	○
	工学教育研究部教授	田村 宏樹	○
	農学部教授	伊藤 哲	○
	地域資源創成学部教授	金岡 保之	○
学長戦略企画室	室長	片岡 寛章	
事務局	監査室長	前原 信也	
	企画総務部長	岩崎 英明	
	総務広報課長	平田 勝夫	
	企画評価課長	黒木 昌博	
	人事課長	佐藤 貴紀	
	財務部長	丸井 とし也	
	財務課長	野澤 勝信	
	経理調達課長	尾崎 政彦	
	照査・検収室長(事務取扱)	丸井 とし也	
	施設環境部長	安藤 豊幸	
	企画管理課長	宮下 稔	
	施設整備課長	鴨田 保	
教育学部	学部長	藤井 良宜	○
	附属教育協働開発センター長	幸 秀樹	
	附属学校園統括長	三輪 佳見	
	附属幼稚園長	高橋 京子	

役員会委員 :○印
経営協議会委員 :●印
教育研究評議会評議員 :○印

(令和5年7月1日現在)

附属小学校長	柳瀬 智文
附属中学校長	金丸 賢一
教育学部・地域資源創成学部事務長	原 典子
医学部 学部長	菱川 善隆 ○
医学部附属病院長	帖佐 悅男
事務部長	山里 善彦
総務課長	高橋 圭郎
管理課長	松本 浩一
医事課長	平田 美紀
医療支援課長	中原 敏男
医療人育成課長	進藤 功一
総務医事課長	瀬口 智子
コミュニケーション・メディカルセンター長	渡邊 信二
工学部 学部長	鈴木 祥広 ○
事務長	有馬 定昭
農学部 学部長	國武 久登 ○
附属フィールド科学教育研究センター長	高木 正博
附属動物病院長	永延 清和
附属農業博物館長	宇田津徹朗
事務長	今屋敷哲也
地域資源創成学部 地域資源創成学部長	桑野 齐 ○
工学教育研究部 工学教育研究部長(併)	鈴木 祥広
教育学研究科 研究科長(併)	藤井 良宜
看護学研究科 専門職学位課程統括長	戸ヶ崎泰子
看護学研究科 研究科長(併)	野間口千香穂 ○
工学研究科 研究科長(併)	鈴木 祥広
農学研究科 研究科長(併)	國武 久登
地域資源創成学研究科 研究科長(併)	桑野 齐
医学獣医学総合研究科 研究科長(併)	根岸 裕孝
農学工学総合研究科 研究科長(併)	丸山 治彦 ○
学び・学生支援機構 機構長(併)	山内 誠 ○
研究・産学地域連携推進機構 事務部長	新地 辰朗
	山里 里美
	教育支援課長 大野 えり
	学生支援課長 福屋寿美子
	入試課長 杉本 佳彦
研究・産学地域連携推進機構 機構長(併)	片岡 寛章
事務部長(事務取扱)	佐藤 一仁
	研究推進課長 佐々木喜朗
	産学・地域連携課長 橋口 幸治
国際連携機構 機構長(併)	新地 辰朗
	国際連携課長 鈴木 直
フロンティア科学総合研究センター センター長(併)	越本 知大 ○
産業動物防疫リサーチセンター センター長(併)	吉田 彩子 ○
IRセンター センター長(併)	酒井 剛
安全衛生保健センター センター長(併)	石田 康
情報基盤センター センター長(併)	廿日出 勇
事務長	守矢 浩
附属図書館 館長(併)	石川千佳子
	事務長(併) 守矢 浩
清花アテナDEI推進室 室長	兒玉 由紀

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科

センター・施設等

地域貢献

キャンパスマップ

職員数

(令和5年5月1日現在)

部局等	区分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学校教員	事務局等職員	合計
学長		1											1
監事			(1) 2										(1) 2
理事				(2) 7									(2) 7
事務局											107	107	
教育学部					21	24	13			58			
教育学研究科					9	6				15		13	86
附属幼稚園											7		
附属小学校											30		
附属中学校											28		
医学部					51	36	15	92	2	196		192	388
附属病院					7	8	25	109	1	150		977	1127
工学部												35	35
工学教育研究部					44	39		12		95			95
農学部					46	36	1	15		98		17	115
附属フィールド科学教育研究センター					3	2	1			6		24	30
附属動物病院					1	1		2		4		4	8
附属農業博物館					1					1			1
地域資源創成学部					11	12	5	1		29		5	34
地域資源創成学研究科							1			1			1
学び・学生支援機構					1	1	1	2	1	6		36	42
研究・産学地域連携推進機構					2	5		3		10		26	36
国際連携機構					2	5	6	4		17		10	27
フロンティア科学総合研究センター					6	5	1	2		14		9	23
産業動物防疫リサーチセンター					4	1				5			5
IRセンター													0
安全衛生保健センター					1	1	2			4		3	7
情報基盤センター						1		1		2		8	10
附属図書館												10	10
テニュアトラック推進室						2	2	2		6			6
次世代研究者支援室												1	1
計		1	(1) 2	(2) 7	210	185	73	245	4	717	65	1481	(3) 2,273

※常勤職員数（ただし、監事（1）・理事（2）については、非常勤で内数）

歴代学長

旧宮崎大学			宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高橋 隆道	S24. 5.31～S27. 7.25		勝木 司馬之助	S49. 6. 7～S55. 6.30	
杉原 清一	S27. 7.26～S28. 8. 1	(事務取扱)	玉井 達二	S55. 7. 1～S61. 3.31	
栗原 一男	S28. 8. 1～S32. 7.31		常俊 義三	S61. 4. 1～S61. 5.31	(事務取扱)
甲斐 三郎	S32. 8. 1～S38. 7.31		岡本 直正	S61. 6. 1～H 2. 3.31	
岩村 岳	S38. 8. 1～S42. 7.31		木下 和夫	H 2. 4. 1～H 8. 3.31	
廣田 輝雄	S42. 8. 1～S46. 7.31		森満 保	H 8. 4. 1～H14. 3.31	
外山 三郎	S46. 8. 1～S50. 7.31		松尾 壽之	H14. 4. 1～H15. 9.30	
井上 由扶	S50. 8. 1～S56. 7.31				
三善 正市	S56. 8. 1～S58.10.16				
木村 正雄	S58.10.16～S58.11.30	(事務取扱)			
遠藤 尚	S58.12. 1～H元.11.30				
池田 一	H元.12. 1～H 7.11.30				
二神 光次	H 7.12. 1～H13.11.30				
藤原 宏志	H13.12. 1～H15. 9.30				

宮崎大学		
住吉 昭信	H15.10.1～H21.9.30	
菅沼 龍夫	H21.10.1～H27.9.30	
池ノ上 克	H27.10.1～R 3.9.30	
鮫島 浩	R 3.10.1～	

学部

学 部

学部	学科・課程	講座・コース・専攻・プログラム
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース（小学校主免専攻、中学校主免専攻） 教職実践基礎コース 発達支援教育コース（子ども理解専攻、特別支援教育専攻）
医学部	医学科	基礎系医学講座 解剖学（組織細胞化学、超微形態科学、医学生物学） 機能制御学（統合生理学、循環動態生理学、血管動態生化学、機能生化学、薬理学、生命分子科学、蛋白質機能学） 病理学（構造機能病態学、腫瘍・再生病態学） 感染症学（微生物学、寄生虫学、免疫学） 社会医学（公衆衛生学、法医学、生命・医療倫理学、医療社会学、研究の倫理と政策学、データマネジメント、数理科学、英語） 臨床系医学講座 内科学（循環器・腎臓内科学、血液・糖尿病・内分泌内科学、呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学、消化器内科学） 外科学（肝胆脾外科学、消化管・内分泌・小児外科学、心臓血管外科学、呼吸器・乳腺外科学、形成外科学） 臨床神経科学（精神医学、脳神経外科学） 発達泌尿生殖医学講座（小児科学、泌尿器科学、産婦人科学） 感覚運動医学（整形外科学、皮膚科学、眼科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、顎顔面口腔外科学） 病態解析医学（放射線医学、麻酔生体管理学、救急・災害医学）
	看護学科	生活・基盤看護科学講座、子育て世代・子ども健康看護科学講座、統合臨床看護科学講座
工学部	工学科	応用物質化学プログラム 土木環境工学プログラム 応用物理工学プログラム 電気電子工学プログラム 機械知能工学プログラム 情報通信工学プログラム
農学部	植物生産環境科学科 森林緑地環境科学科 応用生物科学科 海洋生物環境学科 畜産草地科学科 獣医学科	
地域成学資源部	地域資源創成学科	企業マネジメントコース 地域産業創出コース 地域創造コース

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・学院

センター・施設等

地域貢献

資料編

キャンパスマップ

大学院・寄附講座・共同研究講座

大学院

研究科	専攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発専攻 (教職大学院)	教職実践高度化コース（教育行政・学校経営分野、生徒指導・教育相談分野、教育課程・授業研究分野） 教科領域指導力高度化コース 特別支援教育コース
看護学研究科 (修士課程)	看護学専攻	研究者育成コース（基盤システム看護学領域、地域・精神看護学領域、成人・老年療養支援看護学領域、母子健康看護学領域） 実践看護者育成コース（がん看護領域、実践助産学領域、実践助産学開発領域）
工学研究科 (修士課程)	工学専攻	環境系コース エネルギー系コース 機械・情報系コース
農学研究科 (修士課程)	農学専攻	植物生産環境科学コース、森林緑地環境科学コース、 応用生物科学コース、海洋生物環境科学コース、 畜産草地科学コース、農学国際コース
地域資源創成学研究科 (修士課程)	地域資源創成学専攻	
医学獣医学総合研究科 (修士課程)	医科学獣医科学専攻	生命科学研究者育成コース、高度医療関連技師・サービスイノベーション人材養成コース、生命倫理コーディネーターコース
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	医学獣医学専攻	高度臨床医育成コース、高度獣医師育成コース、 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学専攻	環境共生科学教育コース、持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学専攻	生命機能科学教育コース、水域生物科学教育コース
	物質・情報工学専攻	新材料エネルギー工学教育コース、生産工学教育コース、数理情報工学教育コース

寄附講座

部局名	講座名	設置期間	寄附者
医学部	地域医療・総合診療医学講座	平成 22 年～	宮崎県
	血液・血管先端医療学講座	平成 23 年～	宮崎県、延岡市
	宮崎小児地域医療学・次世代育成支援講座	平成 30 年～	宮崎市
	地域包括ケア・総合診療医学講座	令和 2 年～	一般財団法人つの未来まちづくり推進機構
	災害医療・救急医療支援講座	令和 3 年～	小林市
地域資源創成学部	地域経営学講座	令和 2 年～	一般財団法人つの未来まちづくり推進機構
国際連携センター	外国人 ICT 技術者人材育成学講座	令和 3 年～	株式会社新興出版社啓林館

共同研究講座

部局名	講座名	設置期間	共同研究者
医学部	医療環境イノベーション講座 Collaboration Labo. M&N	令和元年～	日機装株式会社
	生体制御医学研究講座	令和2年～	医療法人芳徳会京町共立病院 医療法人養気会池井病院
農学部	先端バイオ素材創生学講座	令和3年～	スバル株式会社、株式会社ユーグリード

附属図書館

蔵書構成（本館）

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和漢書	19,469	20,488	32,311	106,577	71,531	50,244	34,566	20,589	12,754	30,754	399,283
洋書	4,211	7,445	4,781	17,775	40,091	11,382	10,046	2,257	4,778	12,033	114,799
合計	23,680	27,933	37,092	124,352	111,622	61,626	44,612	22,846	17,532	42,787	514,082

蔵書構成（医学分館）

区分	基礎教育等（和洋）						専門教育等						合計				
	人文	社会	自然	外国語	保健体育	その他	基礎医学			臨床医学							
							和書	洋書	小計	和書	洋書	小計					
蔵書	6,318	5,082	6,956	4,307	460	515	23,638	12,683	22,019	34,702	26,686	35,860	62,546	5,315	590	5,905	126,791

雑誌情報

単位：タイトル

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	8,339	2,281
洋雑誌	2,745	1,730
合計	11,084	4,011

開館時間

	本館		医学分館	
	授業期	休業期	授業期	休業期
月曜日～金曜日	8:40～21:00	9:00～17:00	9:00～20:00	9:00～17:00
土曜日・日曜日	9:00～17:00	休館	13:00～17:00	休館
祝日	休館	休館	休館	休館

休館日

休業期間中の土曜日・日曜日、国民の祝・休日、年末年始(12/28-1/4)

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

利用状況

(令和4年度)

区分	本館		医学分館	
入館者（人） [うち学外者（人）]	218,171 [10,485]		68,021 [0]	
貸出	人数（人）	冊数（冊）	人数（人）	冊数（冊）
	学生	6,162	12,073	936
	教職員	1,002	2,377	449
	学外者	348	944	0
合計	7,512	15,394	1,385	2,894
レファレンスサービス(件)	729		573	
学外文献	依頼(件)	800	537	
複写	受付(件)	148	315	

医学部附属病院

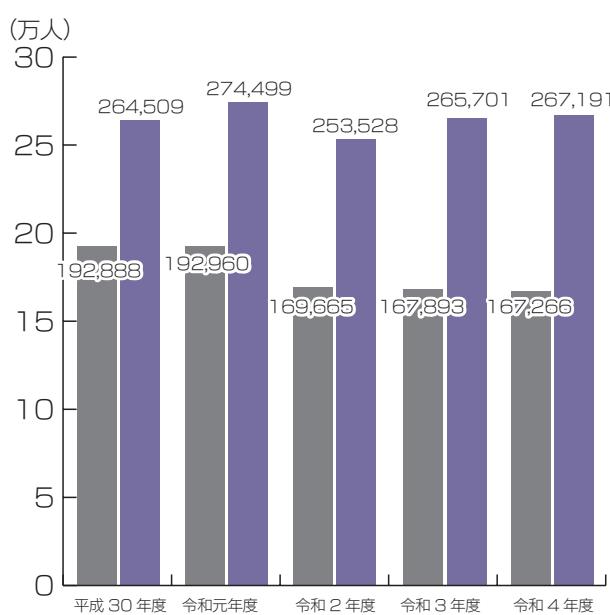
令和4年度 医学部附属病院患者数

科名	区分	入 院			外 来		
		病床数	延患者数	1日平均患者数	初 診	再 診	延患者数
循 環 器 内 科		26	9,694	26.6	923	7,753	8,676
腎 臓 内 科		11	3,571	9.8	178	2,113	2,291
血 液 内 科		22	8,685	23.8	318	4,147	4,465
脳 神 経 内 科		16	6,534	17.9	505	4,765	5,270
呼 吸 器 内 科		16	6,217	17.0	477	3,305	3,782
内 分 泌・代 謾・糖尿病内科		8	2,312	6.3	538	10,652	11,190
膠 原 病・感染症内科		14	4,293	11.8	395	8,133	8,528
消 化 器 内 科		48	16,660	45.6	1,379	15,796	17,175
精 神 科		36	5,321	15.0	266	7,286	7,552
小 児 科		24	6,152	16.9	957	18,573	19,530
肝 胆 脾 外 科			1,833	5.0	210	1,584	1,794
消化管・内分泌・小児外科			6,900	18.9	524	4,256	4,780
心 臓 血 管 外 科			4,495	12.3	256	1,483	1,739
呼吸器・乳腺外科			2,740	7.5	330	3,599	3,929
形 成 外 科			502	1.4	127	1,269	1,396
整 形 外 科		53	16,684	45.7	1,878	57,567	59,445
皮 膚 科		16	5,574	15.3	1,190	14,700	15,890
泌 尿 器 科		22	6,040	16.5	628	9,135	9,763
眼 科		22	7,281	19.9	1,773	15,867	17,640
耳 鼻 いんこう・頭頸部外科		30	8,463	23.2	1,058	10,039	11,097
産 科・婦 人 科		27	16,584	45.4	903	9,676	10,579
放 射 線 科		1	226	0.6	242	2,283	2,525
麻 醉 科		2	185	0.5	291	3,731	4,022
脳 神 経 外 科		22	7,732	21.2	436	4,439	4,875
歯科口腔外科・矯正歯科		11	3,646	10.0	2,871	20,200	23,071
救 急		20	8,942	24.5	1,032	329	1,361
臨 床 肿 癢 科					230	4,596	4,826
合 計		※ 632	167,266	458.0	19,915	247,276	267,191
							1,095.0

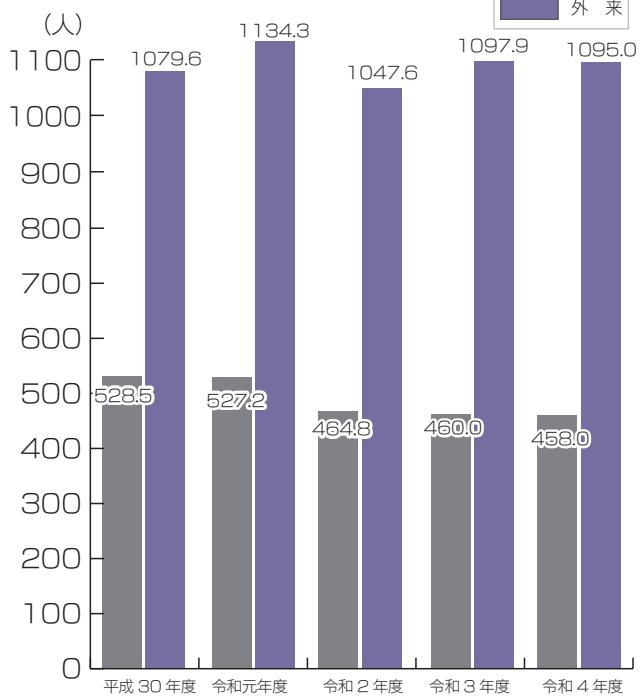
※その他の病床 85 床を含む

年度別患者数

延患者数



1 日平均患者数



II 学生・生徒・児童及び園児数

1. 学 部

(令和5年5月1日現在)

学部	学科・課程	定員		現員						
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教育学部	学校教育課程	120	480	129	130	129	132			520
	計	120	480	129	130	129	132			520
医学部	医学科	100	640	101	108	118	109	136	107	679
	看護学科	60	240	63	61	62	62			248
	計	160	880	164	169	180	171	136	107	927
工学部	工学科	370	1,110	(2) 372	(1) 367	(2) 367				(5) 1,106
	環境応用化学科		58				68			68
	社会環境システム工学科		53				70			70
	環境ロボティクス学科		49				56			56
	機械設計システム工学科		54				63			63
	電子物理工学科		53				57			57
	電気システム工学科		49				56			56
	情報システム工学科		54				(1) 65			(1) 65
	計	{10} 370	{20} 1,480	(2) 372	(1) 367	(2) 367	(1) 435			(6) 1,541
農学部	植物生産環境科学科	52	208	(1) 54	(2) 57	(1) 55	57			(4) 223
	森林緑地環境科学科	52	208	54	56	51	59			(1) 220
	応用生物科学科	57	228	(1) 59	(2) 57	(2) 59	68			(5) 243
	海洋生物環境学科	33	132	(1) 34	(1) 34	(2) 35	(1) 36			(5) 139
	畜産草地科学科	61	244	64	60	(1) 61	61			(1) 246
	獣医学科	30	180	33	31	32	31	31	38	196
	計	{若干人} 285	{若干人} 1,200	(3) 298	(3) 295	(5) 293	(5) 312	31	38	(16) 1,267
地域資源創成学部	地域資源創成学科	90	360	97	105	93	89			384
	計	90	360	97	105	93	89			384
合計		{10} 1,025	{20} 4,400	(5) 1,060	(4) 1,066	(7) 1,062	(6) 1,139	167	145	(22) 4,639

() 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第3年次編入学定員分で外数

2. 大学院（修士課程）

(令和5年5月1日現在)

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
看護学研究科	看護学専攻	10	20	7	19	26
工学研究科	工学専攻	134	268	(7) 166	(7) 164	(14) 330
農学研究科	農学専攻	68	136	(12) 72	(6) 93	(18) 165
地域資源創成学研究科	地域資源創成学専攻	5	10	(1) 7	(1) 8	(2) 15
医学獣医学総合研究科	医科学獣医科学専攻	10	20	(2) 9	(2) 15	(4) 24
合 計		227	454	(22) 261	(16) 299	(38) 560

() 内は外国人留学生で内数

3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

(令和5年5月1日現在)

研究科	専攻	定員		現員				計
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	
医学系研究科	医学専攻						1	1
	計						1	1
医学獣医学総合研究科	医学獣医学専攻	23	92	(10) 22	(3) 22	(10) 24	(8) 73	(31) 141
	計	23	92	(10) 22	(3) 22	(10) 24	(8) 73	(31) 141
農学工学総合研究科	資源環境科学専攻	7	21	(2) 8	(3) 9	(10) 29		(15) 46
	生物機能応用科学専攻	4	12	1	(1) 6	(2) 6		(3) 13
	物質・情報工学専攻	5	15	(3) 5	(7) 10	(4) 12		(14) 27
	計	16	48	(5) 14	(11) 25	(16) 47		(32) 86
合 計		39	140	(15) 36	(14) 47	(26) 71	(8) 74	(63) 228

() 内は外国人留学生で内数

4. 教職大学院（専門職学位課程）

(令和5年5月1日現在)

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
教育学研究科	教職実践開発専攻 (教職大学院)	20	40	21	15	36

5. 別 科

別科	専修	定員	現員
畜産別科	畜産専修	4	1

6. 科目等履修生・研究生等

学部・研究科		科目等履修生	研究生	特別聴講学生	日本語・日本文化研修留学生	特別研究学生	教員研修留学生
学部	教育学部	4	14	8	1		
	医学部	1		1			
	工学部	2	1				
	農学部	1	1	2			
	地域資源創成学部		1	4			
大学院	教育学研究科					2	1
	看護学研究科						
	工学研究科	1	1				
	農学研究科		4				
	地域資源創成学研究科		1				
	医学獣医学総合研究科（修士）		3				
	医学獣医学総合研究科（博士）						
農学工学総合研究科							
合計		9	26	15	1	2	1

7. 附属学校園

(令和5年5月1日現在)

区分	区分	定員				現員				学級数	
		3歳児	4歳児	5歳児	計	3歳児	4歳児	5歳児	計		
附属幼稚園	2年保育	-	20	20	40	-	12	8	20	計5学級	
	3年保育	28	28	28	84	23	26	27	76		
	合計	28	48	48	124	23	38	35	96		
附属小学校	学校区分	定員		現員						学級数	
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
	普通学級	96	621	96	102	100	99	94	98	589	計18学級 (各学年3学級)
	特別支援学級	2	22	0	1	1	2	0	2	6	計13学級 (1・2年、3・4年、5・6年)
	合計	98	643	96	103	101	101	94	100	595	
附属中学校	学校区分	定員		現員						学級数	
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
	普通学級	144	464	144	157	156	457			計12学級 (各学年4学級)	
	特別支援学級	4	20	4	8	7	19			計3学級 (各学年1学級)	
	合計	148	484	148	165	163	476				

令和5年度入学状況

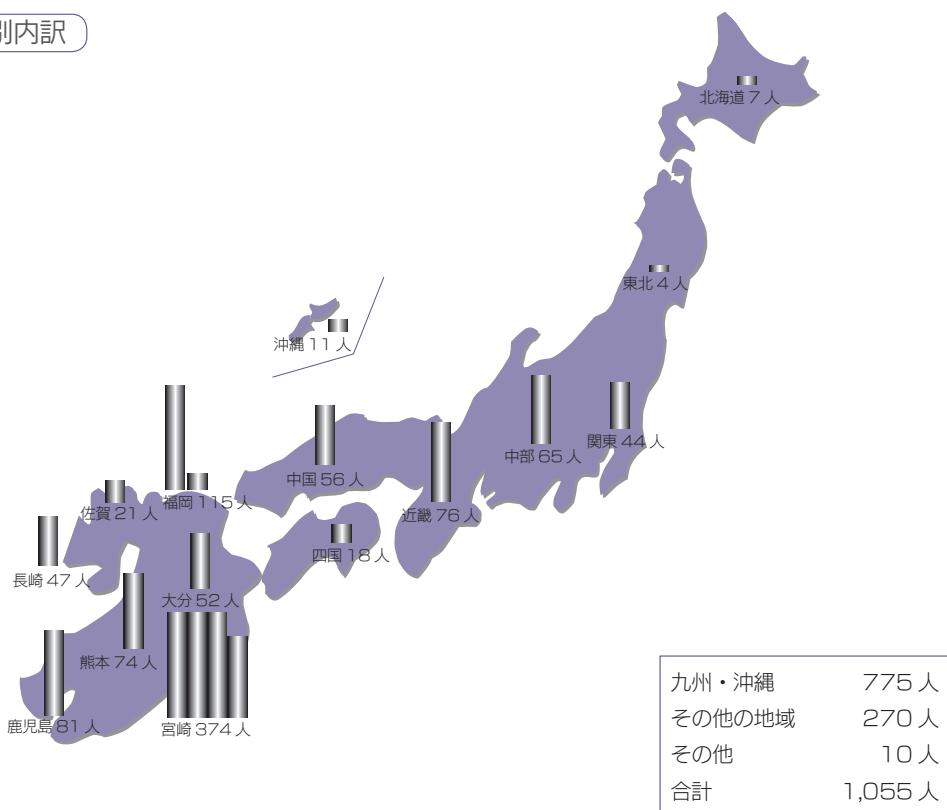
1. 学部

学部	学科・課程	入学定員	志願者			入学者			
			男	女	計	男	女	計	
教育学部	小中一貫教育コース	小学校主免専攻	55	172	207	379	20	38	58
		中学校主免専攻	35	61	40	101	17	21	38
	教職実践基礎コース		10	14	12	26	6	5	11
	発達支援教育コース	子ども理解専攻	10	1	23	24	0	11	11
		特別支援教育専攻	10	10	23	33	2	9	11
	計		120	258	305	563	45	84	129
医学部	医学科		100	(2) 668	587	1,255	48	52	100
	看護学科		60	22	176	198	6	54	60
	計		160	(2) 690	763	1,453	54	106	160
工学部	工学科		370	(9) 1,666	220	1,886	318	54	(2) 372
	計		370	(9) 1,666	220	1,886	318	54	(2) 372
農学部	植物生産環境科学科		52	(1) 136	(1) 98	(2) 234	(1) 32	(1) 22	(1) 54
	森林緑地環境科学科		52	203	81	284	32	22	54
	応用生物科学科		57	(1) 253	(1) 233	(1) 486	(1) 25	(1) 34	(1) 59
	海洋生物環境学科		33	(2) 152	(1) 72	(3) 224	(1) 21	(1) 13	(1) 34
	畜産草地科学科		61	132	149	281	23	41	64
	獣医学科		30	(1) 114	(1) 129	(1) 243	15	18	33
	[グローバル人材育成入試]		[10]	(4) 4	(1) 1	(5) 5	(2) 2	(1) 1	(3) 3
	計		285	(5) 990	(2) 762	(7) 1,752	(2) 148	(1) 150	(3) 298
地域創成資源学部	地域資源創成学科		90	209	169	378	56	40	96
	計		90	209	169	378	56	40	96
合 計			1,025	(16) 3,813	(3) 2,219	(19) 6,032	(4) 621	(1) 434	(5) 1,055

() 内は外国人留学生で内数

農学部のグローバル人材育成入試の定員 10 名、志願者数 5 名及び入学者数 3 名は、獣医学科を除く農学部の定員 255 名、志願者数 1,509 名及び入学者数 265 名にそれぞれ含まれる。

出身高校所在地域別内訳



2. 大学院

研究科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（専門職学位）	20	11	13	24	8	13	21
看護学研究科（修士）	10	0	7	7	0	7	7
工学研究科（修士）	134	(3) 191	(2) 16	(5) 207	(2) 147	(2) 16	(4) 163
農学研究科（修士）	68	(7) 58	(5) 28	(12) 86	(6) 45	(5) 25	(11) 70
地域資源創成学研究科（修士）	5	(1) 6	5	(1) 11	(1) 3	4	(1) 7
医学獣医学総合研究科（修士）	10	(1) 5	4	(1) 9	(1) 5	3	(1) 8
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(2) 9	(1) 8	(3) 17	(2) 7	(1) 8	(3) 15
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(5) 9	3	(5) 12	(5) 8	3	(5) 11
計	286	(19) 289	(8) 84	(27) 373	(17) 223	(8) 79	(25) 302

() 内は外国人留学生で内数

3. 別科

別科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	1	0	1	1	0	1

■卒業者・修了者数

1. 学部

◆ 令和4年度 卒業者

学部	学科・課程	令和4年度卒業者数
教育学部	学校教育課程	121
	計	121
教育文化学部	学校教育課程	1
	計	1
医学部	医学科	92
	看護学科	61
	計	153
工学部	環境応用化学科	50
	社会環境システム工学科	48
	環境ロボティクス学科	49
	機械設計システム工学科	55
	電子物理工学科	48
	電気システム工学科	52
	情報システム工学科	53
	計	355
農学部	植物生産環境科学科	54
	森林緑地環境科学科	52
	応用生物科学科	58
	海洋生物環境学科	33
	畜産草地科学科	64
	獣医学科	28
	計	289
地域資源創成学部	地域資源創成学科	86
	計	86
合 計		1,005

◆ 令和4年度までの全卒業者

学部	累計
教育学部	12,743
教育文化学部	3,993
医学部	5,523
工学部	16,512
農学部	16,674
地域資源創成学部	364
合 計	55,809

外国人留学生を含む

2. 大学院

研究科	令和4年度修了者数	累計
看護学研究科（修士）	10	62
医学系研究科（博士）	0	443
工学研究科（修士）	142	2,000
農学研究科（修士）	56	2,487
地域資源創成学研究科（修士）	6	11
医学獣医学総合研究科（修士）	6	80
医学獣医学総合研究科（博士）	29	218
農学工学総合研究科（博士後期）	11	225
教育学研究科（修士）	3	587
医科学看護学研究科（修士）	—	81
医学系研究科（修士）	—	115
工学研究科（博士前期）	—	1,999
工学研究科（博士後期）	—	113
合 計	263	8,421

修了者数には満期退学者を含む

教職大学院

研究科	令和4年度修了者数	累計
教育学研究科（専門職学位）	12	337

3. 専攻科

研究科	全修了者数
教育専攻科	119
工学専攻科	30
農学専攻科	50
合 計	199

平成6年度までにすべて廃止

4. 別科

研究科	令和4年度修了者数	累計
畜産別科	2	337

博士の学位授与者数

(令和5年3月31日現在)

区分	課程博士		論文博士	
	令和4年度	累 計	令和4年度	累 計
医学獣医学総合研究科	31	220	5	5
医学系研究科		441		228
工学研究科		113		5
農学工学総合研究科	10	222	1	4
合 計	41	996	1	242

令和4年度就職状況

1. 学部

(令和5年5月1日現在)

区分	卒業者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学部	121 (65)	14 (6)	96 (58)	64 (45)	32 (13)	11 (1)
教育文化学部	1					1
医学部	153 (101)	6 (5)	57 (52)	31 (29)	26 (23)	90 (44)
工学部	355 (34)	196 (15)	154 (18)	42 (5)	112 (13)	5 (1)
農学部	289 (142)	78 (30)	179 (99)	38 (23)	141 (76)	32 (13)
地域資源創成学部	86 (42)	5 (4)	77 (37)	34 (17)	43 (20)	4 (1)
合計	1,005 (384)	299 (60)	563 (264)	209 (119)	354 (145)	143 (60)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

就職者数は、学校基本調査の定義に基づく。

■産業別就職状況

(令和5年5月1日現在)

区分	教育学部	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	地域資源創成学部	合計
農業、林業					40 (19)		40 (19)
漁業					1		1
鉱業、採石業、砂利採取業							0
建設業	1			18 (3)	8 (3)	2 (1)	29 (7)
製造業				60 (9)	39 (21)	5 (3)	104 (33)
電気・ガス・熱供給・水道業				6		1 (1)	7 (1)
情報通信業	4 (3)			27 (1)	4 (3)	7 (5)	42 (12)
運輸業、郵便業				2	1	1	4
卸売業、小売業	2 (2)			1 (1)	12 (8)	5 (1)	20 (12)
金融業、保険業	1			3 (1)	4 (4)	12 (6)	20 (11)
不動産業、物品賃貸業	1					4 (2)	5 (2)
学術研究、専門・技術サービス業				11	11 (7)	11 (5)	33 (12)
宿泊業、飲食サービス業					1 (1)	1 (1)	2 (2)
生活関連サービス業、娯楽業				1	2 (1)	3 (2)	6 (3)
教育、学習支援業	80 (47)				3 (1)		83 (48)
医療、福祉	2 (1)		57 (52)	1	2 (1)	3	65 (54)
複合サービス業					2	3 (3)	5 (3)
サービス業				3	5 (3)	2 (1)	10 (4)
公務	4 (4)			20 (2)	39 (23)	17 (6)	80 (35)
その他	1 (1)			1 (1)	5 (4)		7 (6)
合計	96 (58)	0	57 (52)	154 (18)	179 (99)	77 (37)	563 (264)

2. 大学院

◇ (修士・専門職学位) 課程

(令和5年5月1日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学研究科	15 (7)		15 (7)	14 (7)	1	
看護学研究科	10 (8)		9 (7)	5 (3)	4 (4)	1 (1)
医学獣医学総合研究科	6 (3)		6 (3)	5 (2)	1 (1)	
工学研究科	142 (15)	3 (1)	138 (14)	8 (1)	130 (13)	1
農学研究科	56 (25)	6 (4)	46 (19)	11 (4)	35 (15)	4 (2)
地域資源創成学研究科	6 (2)		4 (2)	4 (2)		2
合計	235 (60)	9 (5)	218 (52)	47 (19)	171 (33)	8 (3)

◇ (博士後期・一貫) 課程

(令和5年5月1日現在)

区分	修了者数	就職者数	就職先内訳		その他
			県内	県外	
医学系研究科	0				
医学獣医学総合研究科	29 (8)	27 (8)	16 (5)	11 (3)	2
農学工学総合研究科	11 (4)	10 (3)		10 (3)	1 (1)
合計	40 (12)	37 (11)	16 (5)	21 (6)	3 (1)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

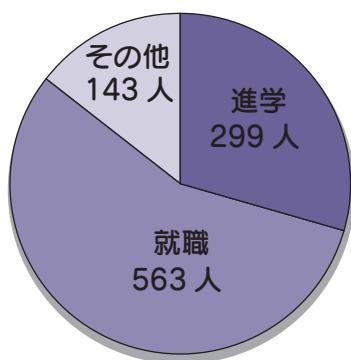
就職者数は、学校基本調査の定義に基づく。

■産業別就職状況

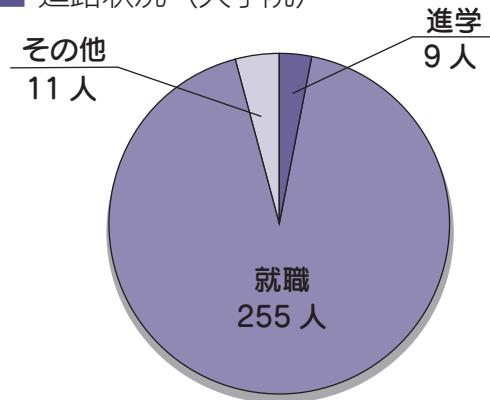
(令和5年5月1日現在)

区分	教育学研究科	看護学研究科	医学系研究科	工学研究科	農学研究科	地域資源創成学研究科	医学歯医学総合研究科	農学工学総合研究科	合計
農業、林業					8 (2)		1 (1)	1 (1)	10 (4)
漁業					1				1
鉱業、採石業、砂利採取業									
建設業				5 (1)	2 (1)				7 (2)
製造業				88 (8)	15 (8)			1	104 (16)
電気・ガス・熱供給・水道業					6				6
情報通信業				24 (2)	2 (1)		1		27 (3)
運輸業、郵便業					1				2
卸売業、小売業				2	2 (1)			1 (1)	5 (2)
金融業、保険業				1		1			2
不動産業、物品賃貸業									
学術研究、専門・技術サービス業					4 (1)		5 (1)	3	12 (2)
宿泊業、飲食サービス業						1 (1)			1 (1)
生活関連サービス業、娯楽業				7 (1)					7 (1)
教育、学習支援業	15 (7)	1				1	5 (4)	3	25 (11)
医療、福祉		8 (7)			2 (1)		20 (4)		30 (12)
複合サービス業									
サービス業				1					1
公務				2 (2)	6 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (8)
その他				1	3 (1)				4 (1)
合 計	15 (7)	9 (7)	0	138 (14)	46 (19)	4 (2)	33 (11)	10 (3)	255 (63)

■進路状況（学部）



■進路状況（大学院）



■奨学生状況

(令和5年2月1日現在)

区分	在学生数	日本学生支援機構				その他の 奨学団体	合計 (単位：人)	在学生に 対する割合
		一種	二種	給付	(うち併用者)			
学部	教育学部	517	179	104	76	71	5	293 56.7
	医学部	922	155	168	81	89	138	453 49.1
	工学部	1,526	443	333	203	184	33	828 54.3
	農学部	1,271	303	205	147	131	22	546 43.0
	地域資源創成学部	377	124	65	58	50	5	202 53.6
	計	4,613	1,204	875	565	525	203	2,322 50.3
大学院	教育学研究科	30	11	1	0	1	1	12 40.0
	看護学研究科	30	8	2	0	2	0	8 26.7
	工学研究科	311	149	6	0	6	3	152 48.9
	農学研究科	151	62	10	0	9	12	75 49.7
	地域資源創成学研究科	13	1	0	0	0	0	1 7.7
	医学系研究科(博士)	1	0	0	0	0	0	0 0.0
	医学歯医学総合研究科(修士)	25	3	1	0	1	0	3 12.0
	医学歯医学総合研究科(博士)	150	4	1	0	0	1	6 4.0
	農学工学総合研究科	86	5	1	0	1	1	6 7.0
	計	797	243	22	0	20	18	263 33.0
合 計		5,410	1,447	897	565	545	221	2,585 47.8

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

国際交流

1. 外国人留学生数

(令和5年5月1日現在)

国・地域名	学部			大学院			研究生			特別聴講(研究)学生			科目等履修生			日研生 (※1) 国費	教研生 (※2) 国費	合計
	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費			
アジア	インド			2														2
	インドネシア			5	15													20
	韓国				3						6					1		10
	スリランカ			1	2													3
	タイ		15	1	16						1							33
	台湾					1					3							4
	中国		5		15			1			2							23
	パキスタン			1	1													2
	バングラデシュ			2	1													3
	ベトナム					2												2
	マレーシア		2			4												6
	ミャンマー			2	11			1										14
	モンゴル					1												1
中東	アフガニスタン			1	4													5
アフリカ	エジプト					3												3
	エチオピア					1												1
	タンザニア			1														1
	ナイジェリア															1		1
	マラウイ			1														1
	ルワンダ			1														1
北米	米国									2								2
中南米	グアテマラ			1														1
	ニカラグア			1														1
	オセアニア	パプア・ニューギニア		1														1
	計		2	20	22	79		2			14					1	1	141

※1 日本語・日本文化研修留学生

※2 教員研修留学生

2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名	大学名等	令和4年度派遣留学生
交流協定校への留学等	アジア	韓国	2
		釜山外国語大学	1
		プリンス・オブ・ソンクラ大学	4
		Central Luzon State University	1
		モンゴル国立大学	2
	北米	アメリカ	1
		エバーグリーン大学	1
	ヨーロッパ	イタリア	2
		カリアリ大学	2
		スロベニア	9
		リュブリヤナ大学	
		オーストラリア	1
協定校以外の大学・語学学校等への留学	ヨーロッパ	アイルランド	1
		International House London	1
		ケンブリッジ大学	1
		語学留学	1
		イタリア	1
		スロベニア	2
	北米	第24回 FAI 熱気球世界選手権	
		ウィスコンシン大学マディソン校	1
		ホームステイ	1
		ワシントン州立大学	1
		合計	33

3. 外国人研究者受入状況

(令和4年度)

受入部局	医学部	工学部	農学部	産業動物防疫 リサーチセンター	合計
国・地域名					
アジア	インド		1		1
	インドネシア		1		1
	中国	1			1
	マレーシア			1	1
	モンゴル		1		1
アフリカ	エジプト		3	1	4
	セネガル		1		1
	タンザニア	1	1		2
中南米	ブラジル		1		1
合計	1	2	8	2	13

4. 海外オフィス

宮崎大学は4ヵ国5ヵ所に海外拠点オフィスを設置し、本学と各大学の学術交流・学生交流を積極的に支援しています。

(令和5年5月1日現在)

オフィス名称	マランオフィス	ジョグジャカルタオフィス	ハノイオフィス	ヤンゴンオフィス	B-JET バングラデシュオフィス
国	インドネシア		ベトナム	ミャンマー	バングラデシュ
所在地	ブライウジャヤ大学	ガジャマダ大学	ベトナム国立農業大学	ヤンゴンコンピュータ大学	ノースサウス大学
常駐職員	—	—	—	2人	—
設置時期	平成21年11月	平成26年11月	平成27年3月	平成26年12月	令和3年10月

■ 海外連携協定機関

■大学間交流協定（91機関）

(令和5年5月1日現在)

国・地域名	大学等	学術交流協定 締結年月日	学生交流覚書 締結年月日
米国	エヴァーグリーン州立大学		1986/ 7/15
韓国	嶺南大学校	1987/ 2/ 8	2005/11/28
スロベニア	リュブリャナ大学	1987/ 9/30	2008/ 4/ 8
タイ	チュラロンコン大学	1988/ 1/26	1996/ 4/12
韓国	順天大学校	1989/11/21	1995/ 8/22
中国	南京農業大学	1990/11/28	2005/11/ 2
インドネシア	ボゴール農業大学	1992/ 8/31	1997/ 9/ 9
タイ	カセサート大学	1992/ 9/ 4	2008/10/14
インドネシア	ハサヌディン大学	1995/ 2/ 6	2007/ 7/ 2
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	1995/12/11	
タイ	キング・モンクット工科大学トンブリ校	1999/ 7/21	2011/ 1/19
中国	温州医科大学	2000/ 3/ 8	
インドネシア	プラウィジャヤ大学	2004/ 4/ 5	2005/ 9/26
台湾	東吳大学	2013/11/14	2004/ 9/ 6
ベトナム	ベトナム国立農業大学	2005/ 5/30	2005/ 5/30
中国	青海大学	2005/ 8/29	2005/ 8/29
インド	インド工科大学カンプール校	2009/ 7/13	
韓国	全北大学校	2009/12/15	2009/12/15
イタリア	カリアリ大学	2010/ 9/27	2011/ 5/31
中国	西北農林科技大学	2010/11/10	2010/11/10
モンゴル	モンゴル国立大学	2011/ 6/28	2011/ 6/28
インドネシア	ガジャマダ大学	2011/10/14	2011/10/14
米国	カンザス州立大学	2012/ 8/ 2	2012/ 8/ 2
韓国	慶北大学校	2013/ 1/ 7	2013/ 1/ 7
中国	長沙理工大学	2013/ 1/10	2013/ 1/10
ミャンマー	ミャンマー保健・スポーツ省	2013/ 1/22	
台湾	開南大学	2013/ 3/15	2013/ 3/15
米国	パデュー大学フォートウェイン校		2013/ 3/22
マレーシア	マレーシア・ブトラ大学	2013/ 7/ 1	2013/ 7/ 1
中国	昆明医科大学	2013/12/ 9	2013/12/ 9
ミャンマー	ミャンマー獸医科大学	2014/ 1/10	
ミャンマー	ミャンマー農業・畜産・灌漑省畜産繁殖・獸医局	2014/ 1/10	
タイ	トンブリ・ラジャハット大学	2014/ 2/ 6	2014/ 2/ 6
モンゴル	モンゴル国立医科学大学	2014/ 6/19	2014/ 6/19
ウルグアイ	ウルグアイ共和国大学	2014/ 6/30	
ベトナム	ベトナム農業・地域開発省水資源教育局水環境研究所	2014/10/23	
米国	トレド大学	2014/10/30	2015/ 5/28
エジプト	ベンハ大学	2014/12/25	2014/12/25
トルコ	エルジエス大学	2015/ 2/ 5	2015/ 2/ 5
ミャンマー	ミャンマー農業・畜産・灌漑省水産局	2015/ 3/ 1	
台湾	大葉大学	2015/ 3/28	2015/ 3/28
台湾	屏東科技大学	2015/ 3/29	2015/ 3/29
米国	ペンシルベニア州立インディアナ大学	2015/ 4/ 9	2015/ 4/ 9
スリランカ	ペラデニア大学	2015/ 4/16	2015/ 4/16
ミャンマー	パテイン大学	2015/ 5/19	2015/ 5/19
インドネシア	アイルランガ大学	2015/12/15	2015/12/15

国・地域名	大学等	学術交流協定 締結年月日	学生交流覚書 締結年月日
ベルギー	リエージュ大学	2016/ 2/ 2	2016/ 2/ 2
ベトナム	ノンラム大学	2016/ 2/ 2	2016/ 2/ 2
韓国	培材大学	2016/ 2/25	2016/ 2/25
韓国	釜山外国语大学校	2016/ 3/10	2016/ 3/10
台湾	国立政治大学	2016/ 3/26	2016/ 3/26
マレーシア	インフラストラクチャー大学クアランプール	2016/ 3/29	2016/ 3/29
インド	VIT大学	2016/ 9/13	2016/ 9/13
インド	ニッテ大学	2016/ 9/15	2016/ 9/15
フィリピン	フィリピン大学	2016/ 9/21	2016/ 9/21
インドネシア	リアウ大学	2016/11/17	2016/11/17
台湾	国立嘉義大学	2017/ 1/16	2017/ 1/16
米国	カリフォルニア大学アーバイン校		2017/ 5/11
タイ	ラジャマンガラ大学スリウィジャヤ校	2017/ 6/20	
タイ	チェンライラジャハット大学	2017/ 7/10	2017/ 7/10
台湾	国立屏東大学	2017/ 7/20	2017/ 7/20
フィリピン	セントラルルソン大学	2017/ 9/11	2017/ 9/11
アフガニスタン	ヘラート大学	2017/11/27	2017/11/27
韓国	安東大学校	2018/ 1/18	2018/ 1/18
インドネシア	タドロコ大学	2018/ 2/ 9	2018/ 2/ 9
タンザニア	セントオーガスティンタンザニア大学	2018/ 2/10	2018/ 2/10
バングラデシュ	ダッカ大学	2018/ 3/ 2	2018/ 3/ 2
ペルー	カジェタノエレディア大学	2018/ 6/13	
ブラジル	ブラジル連邦半乾燥地農業大学	2018/ 8/ 2	2018/ 8/ 2
ペルー	サンマルコス国立大学	2018/ 8/ 7	2018/ 8/ 7
インド	AMITY大学ラジャスタン校	2018/ 9/ 6	2018/ 9/ 6
米国	カリフォルニア大学デービス校		2018/ 9/20
ミャンマー	ミャンマー教育省高等教育局	2018/ 9/27	2018/ 9/27
ミャンマー	ミャンマー農業・畜産・灌漑省農村開発局	2018/ 9/28	
韓国	江陵原州大学校	2018/11/28	2018/11/28
韓国	京畿大学校	2019/ 1/ 7	2019/ 1/ 7
中国	川北医学院	2019/ 2/25	2019/ 2/25
タイ	タイ農業・共同組合省畜産開発局	2019/ 4/23	
マレーシア	ニライ大学	2019/ 5/28	2019/ 5/28
インド	アトウミィヤ大学	2019/ 8/19	2019/ 8/19
スリランカ	モラトゥワ大学	2019/12/24	
マレーシア	マレーシア大学ケランタン校	2019/10/ 1	
韓国	慶星大学校	2019/ 5/16	2019/ 5/16
韓国	忠南大学校	2019/ 8/ 1	2019/ 8/ 1
韓国	徳成女子大学校	2019/12/10	2019/12/10
中国	青島農業大学	2019/12/20	2019/12/20
ペルー	ラモリーナ国立農業大学	2019/12/11	
タイ	キング・モンクット工科大学ラカバン校	2020/ 6/10	2020/ 6/10
台湾	台北医学大学	2021/ 9/10	2021/ 9/10
タイ	ブラパー大学	2021/ 9/29	
インドネシア	インドネシア大学	2023/ 1/19	

■部局間交流協定（53機関）

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日	締結部局
台湾	国立成功大学医学院	2001/ 3/16	2014/11/16	医学部
中国	延辺大学医学院	2003/ 2/12		〃
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部		2005/ 3/ 1	〃
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学看護学部		2009/ 2/22	〃
中国	上海交通大学医学院		2010/11/ 8	〃
中国	温州医科大学		2015/ 6/ 8	〃
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	2016/ 5/17	2016/ 5/17	〃
タイ	マヒドン大学熱帯医学部	2016/ 7/11	2016/ 7/11	〃
ペルー	カジェタノエレディア大学医学部	2016/10/15	2016/10/15	〃
ペルー	カジェタノエレディア大学附属熱帯病医学研究所	2016/10/27	2016/10/27	〃
インドネシア	プラウィジャヤ大学医学部	2016/11/ 2	2016/11/ 2	〃
韓国	忠北大学病院	2017/ 3/20		〃
ミャンマー	ヤンゴン第一医科大学	2018/ 7/22	2018/ 7/22	〃
ミャンマー	公衆衛生大学	2018/12/21	2018/12/21	〃
スロベニア	リュブリヤナ大学医学部	2019/12/ 2	2019/12/ 2	〃
台湾	高雄医学大学・医学部	2019/12/12		〃
台湾	高雄医学大学・人文社会学部	2019/12/12		〃
インドネシア	インドネシア大学医学部		2023/ 3/16	〃
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	1993/ 2/ 1		工学部
オーストラリア	メルボルン大学理学部・工学部	2013/10/16		〃
中国	重慶理工大学工学系学院	2015/12/24	2015/12/24	〃
チニジア	カルタゴ大学国立農業学院	2017/ 9/13	2017/ 9/13	〃
英国	スタークリング大学養殖研究所	1990/ 8/23		農学部
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2003/10/17	2008/ 9/12	〃
韓国	釜慶大学校水産科学部	2012/ 6/ 7	2012/ 6/ 7	〃
イタリア	テラモ大学獣医学部	2013/10/ 2		〃
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大生物資源学部		2013/12/17	〃
タイ	マヒドン大学熱帯医学部		2016/ 9/22	〃
タイ	マヒドン大学獣医学部		2016/ 9/22	〃
韓国	韓国水産科学院戦略養殖部	2016/ 9/29		〃
タイ	コンケン大学獣医学部		2016/11/ 1	〃
チエコ	メンデル大学人形・木材学部	2016/12/19	2016/12/19	〃
タイ	泰日工業大学経営学部	2017/ 2/ 6	2017/ 2/ 6	地域資源創成学部
ベトナム	フエ経済大学経済開発学部	2019/ 7/30	2019/ 7/30	〃
イタリア	ミラノ大学健康、アニマルサイエンス、食品安全科学科	2014/ 4/29	2014/ 4/29	農学部・CADC
イタリア	カラブリア州・健康保護福祉政策部、農林・造林部、カラブリア大学薬学・健康栄養科学科	2014/11/18		〃
タイ	マヒドン大学熱帯医学部	2016/ 9/22		〃
タイ	マヒドン大学獣医学部	2016/ 9/22		〃
タイ	コンケン大学獣医学部	2016/11/ 1		〃
インドネシア	ウダヤナ大学獣医学部	2021/ 5/24	2021/ 5/24	〃
タイ	チェンマイ大学獣医学部	2017/ 4/10	2022/ 9/29	〃
インドネシア	ヌサチャンダナ大学医学・獣医学部	2022/10/19	2022/10/19	医学部・農学部・CADC
タイ	動物衛生研究所	2014/ 3/ 3		C A D I C
カナダ	カナダ食品検査局・国立動物疾病センター・レスブリッジ研究所	2014/11/14		〃
ブラジル	サンパウロ州・サンパウロアグリビジネス科学技術庁・生物研究所	2015/ 9/28		〃
韓国	ソウル大学校獣医校附属産業動物臨床研究・教育センター	2016/ 3/17		〃
カナダ	アルバータ大学	2017/ 1/27		〃
韓国	全北大学家禽疾病コントロールセンター	2017/ 6/16		〃
タイ	チュラロンコーン大学獣医学部	2018/ 1/17		〃
インドネシア	ボゴール農業大学獣医学部	2018/11/ 7		〃
インドネシア	インドネシア海洋水産省魚質検疫・検査庁デンパサール支局	2021/11/12		〃
イタリア	テラモ大学獣医学部	2022/ 3/ 1		〃
ルワンダ	ルワンダ大学	2022/ 5/13		〃

国内連携協定機関

(令和5年5月1日現在)

	協定先	協定月日	目的
1	株式会社宮崎銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
2	株式会社宮崎太陽銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
3	社団法人宮崎県工業会	平成18年 6月 8日	相互の資質の向上及び大学と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
4	宮崎県経済農業協同組合連合会（JA宮崎経済連）	平成19年 5月28日	宮崎県における農業の発展と相互の資質の向上に寄与することを目的とする。
5	宮崎県	平成19年 6月26日	宮崎の特性を生かし、豊かで活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。
6	学校法人高梁学園九州保健福祉大学	平成21年 9月 9日	相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、両大学の教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
7	梅田学園グループ	平成22年 4月13日	交通安全運動推進並びに宮崎大学の学生サークル活動支援のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
8	社団法人宮崎県商工会議所連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
9	宮崎県商工会連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
10	学校法人宮崎総合学院	平成22年10月 7日	各種資格取得並びに就職試験対策への協力のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
11	フェニックスリゾート株式会社	平成23年 2月15日	それぞれの資質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
12	宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合	平成23年 2月18日	スポーツメディカル構想の研究に関して連携協力し、宮崎県・宮崎市と連携を図りつつ、「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
13	社団法人宮崎県商工会議所連合会 宮崎県農業協同組合中央会 宮崎県経済農業協同組合連合会 宮崎県漁業協同組合連合会 宮崎県森林組合連合会 宮崎県商工会連合会 宮崎県 ※宮崎県と本学はアドバイザーとして参加	平成23年 3月31日	農商工連携が推進される中、宮崎県の農業、漁業、林業、工業、商業等の各産業間の一層の連携強化について情報交換や研究を行う場を設けるとともに、それぞれの経営資源を有効に活用して行う事業等の実施について合意した場合は、積極・果敢にその実行に取り組むこととし、もって活力ある地域社会の形成と経済の活性化を図るものとする。
14	宮崎市	平成23年 4月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
15	日南市	平成24年 4月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
16	日向市	平成24年 7月 6日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
17	串間市	平成25年 5月10日 平成27年 8月17日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。 津波が発生し、又は発生する恐れがある場合において、地域住民等が緊急に避難しなければならないときに、宮崎大学が所有する施設を地域住民等の一時避難場所として使用することを目的とする。
18	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技会 組織委員会	平成26年 6月23日	それぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取組を進めため、相互に連携・協力体制を構築することを目的とする。
19	独立行政法人国際協力機構(JICA)	平成26年 7月 9日	開発途上国地域への国際協力事業の質の向上、国際貢献及び大学の教育・研究並びに国内の国際化の推進に寄与することを目的とする。
20	全国「道の駅」連絡会	平成27年 2月13日	「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的とする。
21	学校法人宮崎学園宮崎国際大学 学校法人宮崎学園短期大学	平成27年 8月11日	双方がこれまでお互いに培ってきた実績を基盤にして、相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、教育・研究の推進を図ることにより、それらを通して地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
22	綾町	平成27年 9月15日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
23	株式会社日本政策金融公庫宮崎支店 株式会社日本政策金融公庫延岡支店	平成27年10月29日	研究成果等を地域社会へ還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより地域の産学連携を推進し、もって中小企業及び地域社会の発展に貢献することを目的とする。
24	西都市	平成28年 8月29日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
25	川南町	平成28年10月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
26	日機株式会社	平成28年11月28日	新技術の共同開発研究によるイノベーションの創出ならびに共同開発研究を通じた人材育成などを目的とする。
27	世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会 宮崎県立高千穂高等学校	平成29年 3月 5日	世界農業遺産としての認定を受けた同地域の若い世代を対象とした人材育成をはかりながら、同地域が持つ資源の再評価・体系化などを学術的な視点で明らかにし、地域活性化につなげていくことを目的とする。
28	公益財団法人かずさDNA研究所	平成29年 3月 8日	ゲノム研究を中心とした生命科学・技術に関する研究、生命科学・技術による医療・健康づくり、環境および食糧問題の解決に寄与することを目的とする。
29	門川町	平成29年 6月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
30	宮崎県立図書館	平成30年 4月 1日	知の共有・創造の拠点として、学術、教育及び文化の継承・発展並びに地域貢献に寄与することを目的とする。
31	都城市	平成30年 7月23日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
32	都農町	平成30年 8月27日	都農町が新しく設置する「まちづくり団体」を核として幅広い分野で相互に協力し、都農町の地域課題を解決することを目的とする。
33	宮崎県立宮崎高等学校	令和 元年 6月 5日	地域課題の解決に主体的に取り組むことのできる次世代のリーダー育成をめざし、大学教員がアドバイザーとして助言を行い、地域の高校が探究的な学びを実現する取組を推進することを目的とする。
34	公立大学法人宮崎県立看護大学、公立大学法人宮崎公立大学、南九州大学、宮崎国際大学、九州保健福祉大学、南九州短期大学、宮崎学園短期大学、独立行政法人国立高等専門学校機構都城工業高等専門学校、放送大学宮崎学習センター、宮崎県立農業大学校、独立行政法人航空大학교	令和 元年 7月 1日	宮崎県内で大規模災害等が発生し、又は発生するおそれがあると認められる場合に、結核機関が相互に連携・協力することにより、被災した結核機関に対する迅速かつ円滑な救援・復旧支援を推進し、もって各結核機関の教育研究活動等の継続あるいは早期復旧させることを目的とする。
35	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、宮崎県	令和 元年11月13日	最先端のスマート農業技術を活用した農畜産分野及び食品産業分野における研究開発の強化及び研究成果の利活用並びに人材育成等を通じ、地域産業の振興及び地域社会の持続的発展に寄与することを目的とする。
36	東京慈恵会医科大学	令和 2年 3月 3日	包括的な連携の下、相互の異なる発展を目指し、教育、研究、地域貢献等にわたって広く協力し、社会にその成果を還元し、医療人の育成に寄与することを目的とする。
37	宮崎県立宮崎大宮高等学校	令和 2年 9月16日	大宮高校のワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業カリキュラム開発拠点校指定に基づき行うグローバル教育の重点教育研究に関し、本学が全般的に協力・支援を行うことで、大宮高校における教育の充実・発展を図るとともに、将来を担うグローバルリーダーを育成することを目的とする。
38	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	令和 3年 6月 7日	それぞれの資源を有効に活用した協働による活動を通じ、SDGs達成に資する取組みを推進し、地方創生の実現に資することを目的とする。
39	国立大学法人大分大学	令和 3年11月 1日	包括的な連携の下、双方に共通する理念の実現と社会的使命を果たすため、教育、研究、産学連携及び国際交流等にわたって広く協力し、特に教育研究の推進に寄与することを目的とする。
40	株式会社デンサン	令和 4年10月26日	数理・データサイエンス・AI教育における産学共同教育体制を構築し、デジタル人材を育成することを目的とする。(株式会社デンサンと宮崎大学学び・学生支援機構による協定)

*大学間・機関間レベルの協定のみ記載。

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科

センター・施設等

地域貢献

資料編

キャンパスマップ

令和4年度公開講座実施状況

●本学による公開講座

講座等の名称		参加人数	実施回数	実施期間	総時間数
1	楽しく学ぶ百人一首 ～和文化世界への招待～	19名	5回	5/14~9/3	7.5
2	牧水をよむ ～第1章 永遠の旅～	18名	4回	5/28~8/27	12
3	医学部公開講座 ～医療における最近の話題～	34名	1回	8/27	3
4	見て、触って、学ぼう！人工呼吸器装着患者のケア ～人工呼吸器管理(成人)のポイント～	9名	1回	8/6	4
5	親子でとことこペンギンを作ろう！	55名	3回	8/5~8/7	6
6	親子で熱電について学ぼう	32名	3回	8/5~8/7	7.5
7	親子で参加、海の学校2022 ～親子で磯や海に出て、生き物に触れ、学ぼう！～	23名	1回	8/11	7
8	海を知る2022 ～海の恩恵を知り、その素晴らしさを学ぶ～	56名	4回	9/3~9/24	6
9	スイートコーンの収穫体験 ～採れたてコーンを食べてみよう！～	20名	1回	6/19	2
10	林業基礎体験学習講座 ～安全作業の色は～	15名	5回	5/15~9/25	30
11	田野フィールド公開講座「ミツバチの世界を知ろう！」 ～みつばちの一生とハチミツができるまで～	10名	1回	5/28	2
12	宮崎大学まちなかカレッジ2022(前期)	46名	1回	5/14	4
13	TOEIC マラソンに挑戦しよう♪ ～730点を目指す人向け～	11名	4回	7/17~8/21	8
14	さまよえるアルメニア人	24名	4回	5/18~8/21	6
15	源氏物語	40名	4回	6/4~9/11	12
16	親子で学ぶ天気と防災	7名	1回	8/7	2
17	世界の野球事情	249名	6回	5/11~6/15	9
18	TOEIC マラソンに挑戦しよう♪ ～730点を目指す人向け～	8名	4回	11/26~12/24	8
19	認知症の人に安心してもらう接し方 ～ご家族と共に考える暮らし～	12名	1回	10/29	1
20	コミュニケーションに学ぶ医療安全	5名	1回	11/19	2
21	子どもの健やかな成長のために	11名	1回	11/6	2.5
22	楽しく学ぶ百人一首 ～和文化世界への招待～	18名	5回	10/29~3/5	7.5
23	スポーツメンタルトレーニング入門	15名	1回	12/18	3.3
24	牧水をよむ ～第2章 孤独と別離～	10名	4回	10/22~1/21	12
25	“和合の郷”土呂久に学ぶ環境学3 —2022年・土呂久のいま—	29名	1回	11/19	3
26	世界の野球事情プラス	265名	6回	10/19~12/7	9
27	LIGA Agresiva で日本の社会を変える	11名	1回	2/19	2
28	魚をさばく！2022 魚のさばき方をじっくり学び、味わおう！	19名	1回	2/18	3
29	森林管理の基礎講座 林分調査の手法を学ぼう	7名	1回	11/6	3
30	林業基礎体験学習講座 「安全作業のいのち」	7名	5回	10/16~2/19	25
31	春の森林教室 植林体験と森の恵み	7名	1回	3/18	2.5
32	牛の直腸検査をやってみよう エコーを使えば胎児も見られるかも	22名	1回	3/25	2.5
33	住吉フィールド（牧場）公開講座 牧場体験してみよう	14名	1回	3/28	3
34	源氏物語	30名	4回	11/5~3/12	12
35	幸せの人づくり実践論	26名	5回	10/18~2/18	7.5
36	ゲーテと自然・科学を謳う	25名	5回	11/28~1/20	7.5

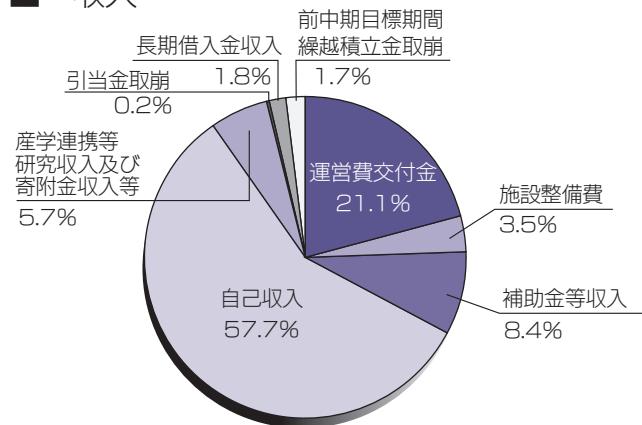
令和4年度経理状況

●決算額

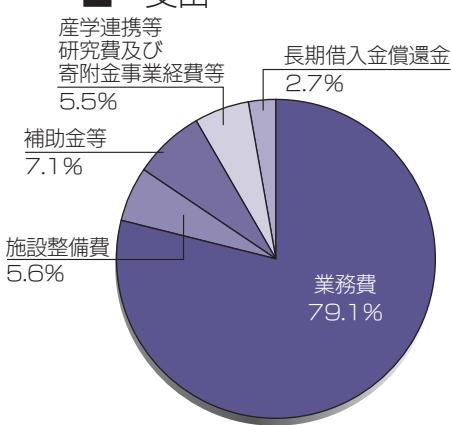
単位：円

収 入		支 出				
運営費交付金	9,232,326,000	業務費	教育研究経費	10,590,036,631		
	14,000,000		診療経費	22,396,763,056		
施設整備費	施設整備費補助金 1,532,709,462	施設整備費	2,314,559,462			
	厚生労働省交付金 0					
補助金等収入		補助金等	2,977,938,917			
自己収入	授業料、入学科及び検定料収入 2,992,382,470	産学連携等研究費	寄附金事業経費	703,120,497		
	附属病院収入 21,379,501,593	及び寄附金事業経費等	産学連携等研究費	1,583,801,319		
	財産処分収入 0	長期借入金償還金	1,117,298,690			
	雑収入(指定管理料収入含む) 890,027,533					
産学連携等研究収入 及び寄附金収入等	寄附金収入 797,097,306					
	産学連携等研究収入 1,701,460,927					
引当金取崩						
長期借入金収入						
前中期目標期間繰越積立金取崩						
目的積立金取崩						
合 計		合 計	41,683,518,572			

■ 収入



■ 支出



●科学研究費助成事業採択状況

(令和4年度)

研究種目	採択件数	金額(千円)
学術変革領域研究(A)	1	13,650
基盤研究(A)	2	19,500
基盤研究(B)	44	201,240
基盤研究(C)	166	206,713
挑戦的研究(開拓)	2	9,230
挑戦的研究(萌芽)	12	31,980
若手研究	39	49,920
研究活動スタート支援	7	10,270
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	1	15,470
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	6	24,180
奨励研究	2	940
研究成果公開促進費	1	1,600
特別研究員奨励費	8	7,360
計	291	592,053

●科学研究費助成事業受入状況



●受託研究受入状況



●共同研究受入状況



●寄附金受入状況



●その他の競争的資金等

(令和4年度)

経費	件数	金額 (千円)
科学技術人材育成費補助金 「卓越研究員事業」	1	19,000
研究開発施設共用等促進費補助金（ライフサイエンス研究の振興 (ナショナルバイオリソースプロジェクト) マメ科植物研究を支えるミヤコグサ・ダイズリソースの高度化と利用拡大	1	24,000

※代表者受入分のみ掲載し、金額は、本学内定額を記載（間接経費を含む）

学生関係施設

●大学会館

建物名称	階別	室 名	用途等
大学会館	地下1		
	1	食堂・ホール・インフォメーションコーナー ベーカリーカフェ	食堂(830席)・ホール 喫茶・軽食(72席)
	2	国際連携センター(国際連携課)	
	3	地域人材部門(地域人材育成課)	
		教学マネジメント部門	

●創立330記念交流会館

建物名称	室 名	用途等
創立330記念交流会館	コンベンションホール	最大300人収容
	コンベンションルーム	最大30人収容
	売店	書籍、文具、その他
	学生なんでも相談室	学生の悩み等の相談
	キャリアアドバイザー室	就職に向けた資格、進路相談

●学生寄宿舎

区分 名称	構 造	入居定員(名)
男子寄宿舎	鉄筋5階建	100
女子寄宿舎	鉄筋5階建	100
国際交流宿舎	鉄骨鉄筋8階建	167
国際交流宿舎II	鉄筋4階建	8
国際交流宿舎III(木花ドミトリー)	鉄筋4階建	31
農学部住吉寄宿舎	鉄筋2階建	5

国際交流宿舎IIの入居定員の単位は室

●体育施設・課外活動施設

◇木花キャンパス

施設名	種目
体育館(武道場)	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球等 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場(400m)	陸上競技
テニスコート(ハード・クレイ・オムニ)	テニス・ソフトテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール等
プール(50m)	水泳
馬場(厩舎)	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室
	文化系(音系) サークル共用室
	グラウンド・サークル棟
清花グラウンド	野球・サッカー・ラグビー

◇清武キャンパス

施設名	種目
テニスコート(ハード・クレイ)	テニス・ソフトテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール(50m)	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道

土地・建物

(令和5年5月1日現在)

区分	土地 (m ²)	建 物 (m ²)		備 考
		建面積	延面積	
[木花地区]	839,592	44,493	117,838	※安全衛生保健センターを含む
事務局		1,332	3,608	
創立330記念交流会館		1,673	1,670	
中央機械棟		430	430	
門衛所		64	64	
大学会館		1,525	3,458	
体育館・器具庫		3,197	3,624	
教育学部・地域資源創成学部		6,706	22,712	※附属教育協働開発センターを含む
工学部		7,041	22,328	
農学部		10,221	31,586	
農学部		5,824	25,213	
農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド(農場)		2,258	2,615	
附属動物病院		1,181	1,867	
産業動物教育研究センター		541	1,125	
附属農業博物館		417	766	
附属図書館	778,523	1,829	4,977	
研究・产学地域連携推進機構等		1,563	3,127	
創造プロジェクト棟		546	898	※イスラーム文化研究交流棟を含む
フロンティア科学総合研究センター等		693	1,877	
情報基盤センター		662	1,254	
総合研究棟		2,455	3,972	※技術家庭棟を含む
寄宿舎		931	3,691	
国際交流宿舎		978	5,211	
課外活動施設		1,580	2,306	
実験廃水処理施設		226	173	
地域デザイン棟		354	238	
一般管理施設(保育施設)		237	384	
農学部水田	61,069	250	250	
[清武地区]				
医学部	224,316	39,035	124,054	
医学部事務部・フロンティア科学総合研究センター等		12,014	36,269	
医学部附属病院		24,268	77,296	
附属図書館医学分館		854	1,908	
総合教育研究棟		1,899	8,581	
[花殿・船塚地区]	61,777	8,709	15,616	
教育学部附属幼稚園	21,797	1,058	913	
木犀会館		132	132	
教育学部附属小学校	39,980	3,613	7,162	
教育学部附属中学校		3,906	7,409	
[その他]				
農学部附属フィールド科学教育研究センター	6,694,031	10,423	11,813	
住吉フィールド(牧場)	502,040	9,074	9,754	
田野フィールド(演習林)	6,185,887	716	990	
延岡フィールド(水産実験所)	6,104	633	1,069	
職員宿舎	29,553	3,782	16,228	
木原新職員宿舎	10,706	1,464	7,330	
木原職員宿舎	10,494	1,097	4,014	
西新町職員宿舎	8,353	1,221	4,884	
保育施設(くすの木保育園)	973	252	225	(木原職員宿舎敷地内)
計	7,850,242	106,694	285,774	

施設所在地

●木花キャンパス

0985-58-7111(番号案内)

名称	電話番号	所在地
事務局	0985(58)2854	
教育学部・教育学研究科	0985(58)2889	
附属教育協働開発センター	0985(58)5287	
工学部・工学研究科	0985(58)2871	
農学部・農学研究科	0985(58)2875	
附属フィールド科学教育研究センター 木花フィールド(農場)	0985(58)7154	
附属動物病院	0985(58)7286	
附属農業博物館	0985(58)2898	
地域資源創成学部・地域資源創成学研究科	0985(58)7848	
附属地域資源情報活用センター		
農学生工学総合研究科	0985(58)7870	
学び・学生支援機構	0985(58)7584	
研究・産学地域連携推進機構	0985(58)4017	
国際連携機構	0985(58)7104	
附属図書館	0985(58)7147	
フロンティア科学総合研究センター		〒 889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
遺伝資源分野	0985(58)7580	
RI分野 RI木花分室	0985(58)2877	
産業動物防疫リサーチセンター	0985(58)7674	
IRセンター	0985(58)7779	
安全衛生保健センター	0985(58)3423	
障がい学生支援室	0985(58)7668	
情報基盤センター	0985(58)2867	
清花アテナDEI推進室	0985(58)7508	
創立330記念交流会館	0985(58)7427	
地域デザイン棟	0985(58)7885	
男子寄宿舎		
女子寄宿舎		
国際交流宿舎	0985(58)7142	

●清武キャンパス

0985-85-1510(番号案内)

名称	電話番号	所在地
医学部・看護学研究科	0985(85)1510	
附属病院	0985(85)1510	
医学獣医学総合研究科	0985(85)9126	
附属図書館医学分館	0985(85)9198	
フロンティア科学総合研究センター		
生理活性物質機能解析分野	0985(85)9427	
生理活性物質探索病態解析分野	0985(85)9718	
ゲノム解析分野	0985(85)0990	
国際感染症研究分野	0985(85)0985	
生物資源分野	0985(85)2971	
分子形態・機能解析分野	0985(85)2809	
RI分野 RI清武分室	0985(85)1514	
安全衛生保健センター分室	0985(85)2392	
清花アテナDEI推進室(清武)	0985(85)1252	

●教育学部

名称	電話番号	所在地
附属幼稚園	0985(24)6707	〒 880-0031 宮崎市船塚 1 丁目 1 番地
附属小学校	0985(24)6706	〒 880-0026 宮崎市花殿町 7 番 49 号
附属中学校	0985(25)1122	〒 880-0026 宮崎市花殿町 7 番 67 号

●農学部

名称	電話番号	所在地
別科(畜産別科)	0985(58)7152	〒 880-0121 宮崎市大字島之内 10100-1
附属フィールド科学教育研究センター 住吉フィールド(牧場)	0985(39)1034	〒 880-0121 宮崎市大字島之内 10100-1
田野フィールド(演習林)(田野地区) (大納地区)	0985(86)0036	〒 889-1702 宮崎市田野町乙 11300 〒 888-0221 串間市大字大納字平原 1885
(崎田地区)		〒 888-0009 串間市大字崎田字名切 4270
延岡フィールド(水産実験所)	0982(37)0327	〒 889-0517 延岡市赤水町 376-6

●その他

名称	電話番号	所在地
まちなかキャンパス	0985(55)0553	〒 880-0805 宮崎市橋通東 3-4-36 村武ビル 1 階
日南デスク	0985(58)7188	〒 887-0014 日南市岩崎 3-4-1-2 Itten 堀川ビル 2 階
くすの木保育園	0985(84)2211	〒 889-1601 宮崎市清武町木原 5600 番地

キャンパスマップ

木花キャンパス

〒889-2192
宮崎県宮崎市学園木花台西
1丁目1番地

Kibana Campus



農学部

- ① 実験研究棟(北)
- ② 講義棟
- ③ 実験研究棟(南)
- ④ 実験研究棟(獣医)
- ⑤ 附属動物病院
- ⑥ 附属農業博物館
- ⑦ 標本植物温室
- ⑧ 附属フィールド科学教育研究センター

教育学部

- ⑨ 講義棟
- ⑩ 実験研究棟
- ⑪ 美術棟
- ⑫ 技術・家庭棟
- ⑬ 音楽棟
- ⑭ 附属教育協働開発センター

地域資源創成学部

- ⑮ 講義棟
- ⑯ 実験研究棟

工学部

- ⑰ 実験研究棟(A棟)
- ⑱ 講義棟(B棟)
- ⑲ 実験研究棟(C棟)
- ⑳ 機械実習工場
- ㉑ 機械工学実験実習棟
- ㉒ 高電圧実験棟
- ㉓ 土木工学実験実習棟
- ㉔ 実験研究棟(E棟)
- ㉕ 電気機器実験棟

2023年4月1日現在

太陽光発電システム・ 太陽熱給湯システム

- A ビームダウン式太陽集光装置
- B 工学部実験研究棟屋上
- C 研究基盤支援施設
(研究・产学地域連携推進機構)壁面
- D 附属図書館屋上
- E 国際交流宿舎屋上
- F NSCエネルギースクエア
(集光型太陽光発電システム)
- G 教育学部技術・家庭棟屋上
- H 教育学部実験研究棟屋上
- I 農学部実験研究棟(北)屋上
- J 農学部講義棟屋上

自然科学野外観察教材 開発プロジェクト

- K 木花キャンパスの地質の全体像
- L 下末吉海進期以降の段丘堆積物
- M 宮崎層群の砂岩泥岩互層
- N ナンバンギセル(ハマウツボ科)
- O 照葉樹林

- ㉖ 福利施設棟
(国際連携機構、学生食堂、インフォメーションコーナー)
- ㉗ 附属図書館(本館)
- ㉘ 創立330記念交流会館
- ㉙ 地域デザイン棟
- ㉚ 事務局棟
- ㉛ 安全衛生保健センター、障がい学生支援室
- ㉜ 情報基盤センター
- ㉝ フロンティア科学総合研究センター(RI木花分室)
- ㉞ 研究・产学地域連携推進施設
(研究・产学地域連携推進機構)
- ㉞ 創造プロジェクト棟
- ㉟ イスラーム文化研究交流棟
- ㉟ 研究基盤支援施設
(研究・产学地域連携推進機構)
- ㉞ フロンティア科学総合研究センター
(遺伝資源分野)
- ㉞ 総合研究棟
- ㉞ 産業動物教育研究センター
- ㉞ 国際交流宿舎
- ㉞ 女子寄宿舎
- ㉞ 男子寄宿舎
- ㉞ 木花ドミトリ
- ㉞ ゆにのもり保育園
- ㉞ シェアカー(2台)
- ㉞ 電気自動車充電スペース

清武キャンパス

〒889-1692
宮崎県宮崎市清武町木原
5200番地



宮崎大学
ユニバーサルデザインマップ
QRコード



Kiyotake Campus



施設位置図

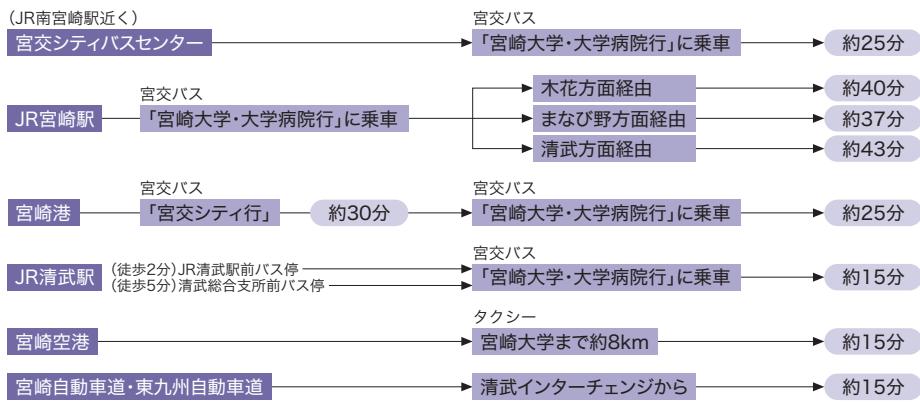
- ① 宮崎大学(木花キャンパス)
- ② 宮崎大学医学部(清武キャンパス)
- ③ 住吉フィールド(牧場)
- ④ 田野フィールド(演習林)
- ⑤ 農学部附属フィールド(大納地区)
- ⑥ // (崎田地区)
- ⑦ 延岡フィールド(水産実験所)
- ⑧ 附属小学校・附属中学校
- ⑨ 附属幼稚園
- ⑩ まちなかキャンパス
- ⑪ 日南デスク



問合せ先一覧

問合せ内容	問合せ先	E-mail	電話番号
宮崎大学の総合案内	総務広報課 総務係	soumuka@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-2854
広報について	総務広報課 広報係	kouhou@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7114
情報公開について	総務広報課 総務係	soumuka@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-2854
授業料納入について	財務課 出納係	suitou@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7122
購入物品について(政府調達)	経理調達課 調達総括係	seicho@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7574
購入物品について	経理調達課 調達総括係	soukatsu@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-2858
入試について	入試課	nyushi-t@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7138
就職関係について	学生支援課 キャリア支援係	syusyoku@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7141
学生生活支援(奨学金、授業料免除、アルバイト)について	学生支援課 経済支援係	kousei@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7976
証明書発行(在学生、卒業生)について	教育支援課 教育支援係	gakukyo@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7856
職員の採用について	人事課 人事係	ninyo@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7109
学生寄宿舎について	学生支援課 学生支援係	kousei@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7142
留学生の受入について	国際連携課	ryugaku@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7134
産学・地域連携について	産学・地域連携課 産学・地域連携係	sangaku@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7951
外部資金申請関係について	研究推進課 研究推進係	k-jyosei@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7113
外部資金契約経理について	産学・地域連携課 外部資金係	gaibusokin@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7246
公開講座について	地域人材育成課	m-chiiki@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7188
教育学部・大学院教育学研究科の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	edusoumu@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-2889
医学部・大学院看護学研究科の総合案内	医学部 総務課 総務係	medsomu@med.miyanasaki-u.ac.jp	0985-85-1510
工学部・大学院工学研究科の総合案内	工学部 総務係	kousoumu@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-2871
農学部・大学院農学研究科の総合案内	農学部 総務係	nou-soumu@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-2875
地域資源創成学部・大学院地域資源創成研究科の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	region@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7848
大学院農学工学総合研究科の総合案内	工学部 教務・学生支援係 農学工学総合研究科担当	noukou-s@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7870
大学院医学獣医学総合研究科の総合案内	医学部 医療人育成課 大学院係	graduate@med.miyanasaki-u.ac.jp	0985-85-9126
まちなかキャンパスについて	地域人材育成課	machinaka@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-55-0553
日南デスクについて	地域人材育成課	m-chiiki@of.miyanasaki-u.ac.jp	0985-58-7188

宮崎大学までの交通機関



令和5年度(2023年度)
国立大学法人 宮崎大学概要

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
URL <https://www.miyanasaki-u.ac.jp/>

[編集発行]

国立大学法人宮崎大学広報企画室
TEL(0985)58-7114 FAX(0985)58-2886

令和5年9月発行

